

# **県立高等学校の魅力・特色づくりの 評価・検証**

## **報告**

**平成25年1月**

**県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会**



## はじめに

兵庫県においては、平成12年以来二次にわたる県立高等学校教育改革実施計画に基づき、個性を尊重する多様で柔軟な高等学校教育を目指し、学びたいことが学べる魅力ある高等学校づくりを積極的に推進するため、総合学科、単位制高等学校、専門高校、特色ある専門学科などの設置をはじめ、普通科における特色あるコースや類型の設置等を行ってきました。

そして、各高等学校における教育活動の魅力・特色づくりを一層進めるため、平成22年度から「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～」を実施してまいりました。

本事業は、高校生が、志を持ち、自ら夢の実現に向けて努力することができる魅力ある教育内容を展開する県立高等学校を積極的に支援することをねらいとしており、各県立高等学校においては、創意工夫あるさまざまな取組が展開されています。

さらに兵庫県では、平成27年度から、これまでの通学区域が16学区から5学区になることとなっています。

こうした経緯を踏まえ、平成24年度に「県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会」が設置され、「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～」を中心とする魅力・特色づくりに係る事業の評価・検証を行い、本県の高等学校の魅力・特色づくりの支援の方向性、充実方策を検討することになり、5回にわたり協議を重ねてまいりました。

評価・検証作業にあたっては、全県立高等学校において生徒と教員、保護者を対象としたアンケート調査を実施するとともに、実際の生徒の活動状況を知るための学校視察を行うことで、より客観的かつ具体的に評価・検証することを重視し、今後の方向性についても提言しています。

この報告をもとに、今後、本県の県立高等学校の魅力・特色づくりがさらに推進され、社会の変化や生徒一人一人の個性・能力、興味・関心等に応じた教育の充実を図っていただきたいと願うものです。

最後に、高等学校の魅力・特色づくりの検証にあたり、アンケート調査及び学校視察等、評価・検証作業にあたりご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会

委員長 長瀬 荘一

# 〔目次〕

1 成果と課題 ······	1
(1) 成果	
(2) 課題	
2 今後の方向性 ······	9
(1) 一層の魅力・特色づくりに向けた取組の充実	
(2) 高等学校の取組の評価・検証と行政支援の充実	
(3) 広報活動の充実	
3 今後の県立高等学校の在り方とのかかわりについて ······	15

# 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会

## 報告

兵庫県では、学びたいことが学べる魅力ある高等学校づくりを推進するため、総合学科、単位制高等学校、専門高校、特色ある専門学科の設置および普通科におけるコースと特色ある類型の設置を行ってきた。

そして、これらの学科・コース・類型の特性を生かした教育課程の編成を一層推進するとともに、高等学校の魅力・特色づくりをより確実に実現させるため、「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」などの事業を展開し、生徒・保護者・地域社会の多様なニーズに対応した特色ある教育活動を充実させる高等学校の取組を支援してきた。

今後、高等学校新通学区域の導入に伴い、ますます多様化が進むと予測される中学生の高等学校選択に対し、県が責任をもって対応できるよう県立高等学校の魅力・特色づくりを一層推進するためにもインスパイア・ハイスクール事業の新たな展開を図る必要がある。

### 1 成果と課題

#### (1) 成果

- 「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート結果」の分析及び高等学校視察等の状況から、次の成果が認められる。

##### 〈アンケート結果〉

- ◇ インスパイア・ハイスクール事業による支援を受け、高等学校が創意・工夫ある教育活動を実施することにより、学習や体験の質が向上し、高等学校での学習活動に対する生徒の満足度が高くなっている。

[アンケート結果 1 参照]

- ◇ 高等学校では、これまで取り組めなかった学習活動の実施を通じて、新たな伝統が芽生えつつある。

[アンケート結果 2 参照]

- ◇ ホームページや学校新聞等の配布、オープン・ハイスクールでの説明等を通して高等学校が魅力・特色の広報活動に努めており、地域からの理解も概ね深まっている。

[アンケート結果 3 参照]

##### 〈高等学校視察〉

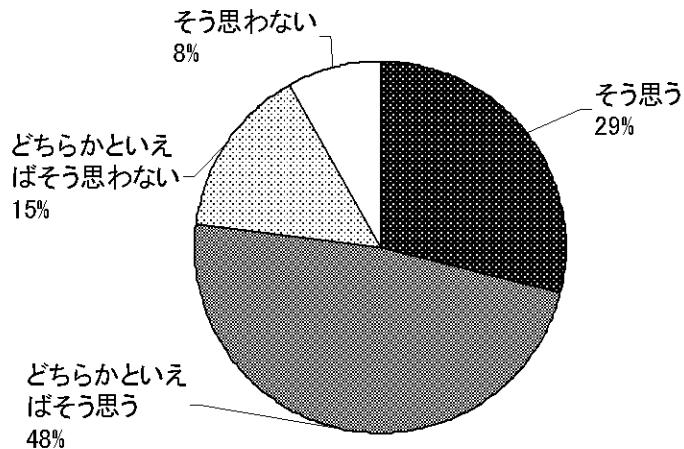
- ◇ 生徒・教職員の意識改革が進むとともに、生徒の学ぶ意欲や教職員の教育活動への意欲に良い影響を与え、高等学校の教育力のみならず県全体の教育力のレベルアップにつながっている。
- ◇ 県立高等学校教育改革第二次実施計画（H21年度～）以前に比べて、高等学校の魅力・特色づくりが概ね進んでいる。また、新通学区域の導入の公表は、高等学校の魅力・特色づくりの取組に対する高等学校教職員の意識改革にもつながっている。

#### ① 生徒にとって

- 事業の実施が生徒全体の活性化につながっている。
  - ・ 魅力・特色づくりに取り組むことが、高等学校全体の教育活動に良い影響を及ぼし、生徒の学ぶ意欲や学習活動全般の活性化につながっている。
- 従来の教育活動では実施できない内容を生徒が体験できることは、学習や体験の質の向上につながるとともに、生徒が自らの資質・能力に気付き、自身のさらなる成長を促している。

- これまで実施できなかった取組の工夫を行うことが可能になることは、生徒にプラスαの体験をさせることにつながっている。例えば、課題研究の指導助言に大学教授や専門性の高い講師を招くなどの取組や、以前は導入できなかった教材の活用などが可能となり、学習や体験の質の高まりが見られる。
  - 体験を通して、より専門的な分野について学ばせることが生徒の関心・意欲の向上につながっている。
- また、このことが、生徒にとって自分の能力に気付くきっかけとなり、自身の新たな成長を促している。
- 課題研究の発表や中・高連携授業等において、生徒自身が司会や説明役を務めたり、説明のためのプレゼンテーションを企画したりする取組が、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成につながっている。
- 生徒の進路意識の向上とともに、主体性や社会性の高まりにつながっている。
- 大学教授や専門講師による質の高い講義や専門機関での体験等を通して、生徒の進路意識が向上するとともに、自己の在り方や生き方について考えたり、社会性の育成につなげたりするなど、キャリア教育の視点からもよい機会となっている。

[アンケート結果 1] あなたは、在籍している学科の学習内容等に満足していますか。



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

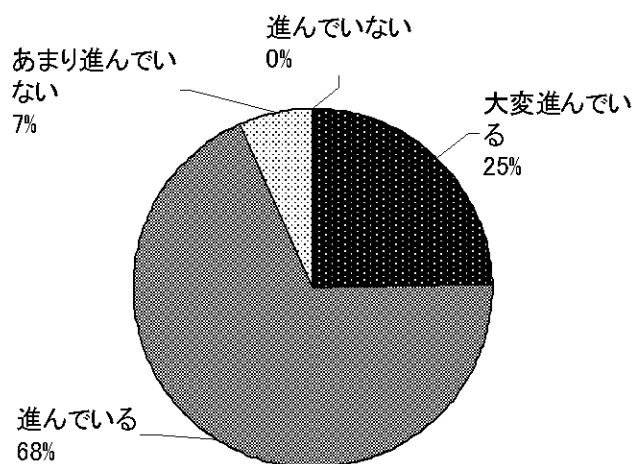
② 高等学校・教職員にとって

- 従来の教育指導に加え、新たな指導方法を取り入れることが可能となり、教職員の意識改革や教育の質の向上に寄与している。
- これまで実施できなかった取組の工夫や、以前は導入できなかった教材の活用がインスパイア・ハイスクール事業により可能となり、その結果、教育内容の質的向上が図られるとともに生徒の学習や体験の質の高まりが見られる。
- 高等学校の魅力・特色づくりの創意・工夫に向けた企画・立案を通して、高等学校の教育活動全体の見直しに加えて、これまで気付かなかつた生徒の能力を発見する契機となっている。
- 教職員にとっては、授業や特別活動等における創意・工夫に向けた事業の企画・立案が、教育活動全体をより良い方向へ見直す契機となっており、高等学校の魅力・特色づくりに対する意識

の改革につながっている。

- ・ 新たな取組を設定することにより、教職員が生徒の興味・関心、能力等を改めて把握し、教職員がこれまで気付かなかった生徒の能力・適性を発見する契機となっている。
- 魅力・特色づくりの取組の改善・充実を重ねることで、高等学校に新たな伝統が芽生えつつある。
  - ・ 高等学校が継続してきた取組は、成果だけでなく課題も含めた経験として受け継がれ、改善・充実を繰り返すことにより新たな伝統の芽生えが見られる。
- 魅力・特色づくりに向けた事業の展開が、学校経営の活性化につながっている。
  - ・ 魅力・特色づくりに向けた事業の展開が、高等学校のミッションに対応した学校経営の活性化に大きく寄与しており、高等学校の教育活動全体に良い影響を及ぼしている。

[アンケート結果2] 貴校の魅力・特色づくりは、以前（平成20年頃）と比べて進んでいますか。



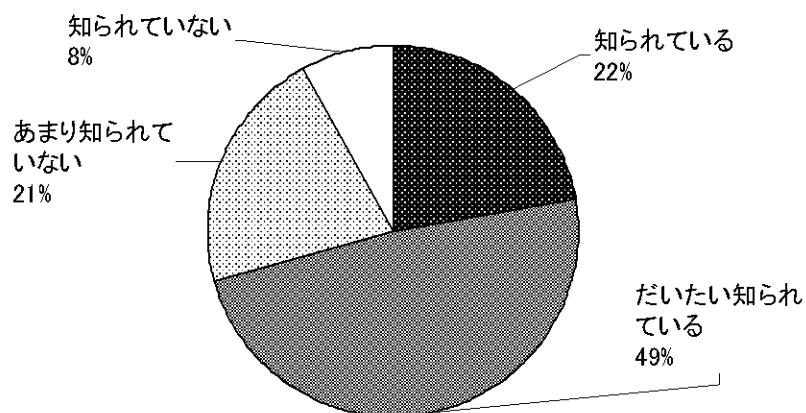
「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（学校長用※全体を集計）による」

### ③ 地域との関係にとって

- 地域と交流・連携した取組の実施を通して、地域の高等学校教育に対する認知度が高まるとともに、地域の人々の評価等が生徒の取組に対する意欲の向上へつながっている。
  - ・ 地域社会と連携した事業を実施することは、高等学校の魅力・特色づくりだけでなく「開かれた高等学校づくり」にも結びついている。
  - ・ 地域の人々にとって、事業を通して高校生と交流することで、地域の高等学校の存在をより身近に認識できるようになっている。
  - ・ 生徒が、地域主催の事業への参画又は参加、また高等学校独自の取組を地域へ向けて企画・実施することで、高等学校の存在意義が地域の人々から認知されるようになっている。
  - ・ 地域との交流の場で、取組に対する感想・評価を直接受けることで、生徒の取組に対する意識の変容が見られる。
- 事業を継続して実施することが、地域の人々に対して、高等学校の魅力・特色を明確に伝えることにつながっている。

- ・ 高等学校が継続してきた取組は、成果だけでなく課題も含めた経験として受け継がれ、地域から見た高等学校のイメージの明確化につながっている。
- 地元の幼稚園・小学校・中学校と高等学校の連携による取組が、高校生だけでなく幼稚園児・小学生・中学生の興味・関心を高めるとともに、教職員の意欲向上やスキルアップにつながっている。
- ・ 中高連携・小高連携・幼高連携による教育活動が、高校生だけでなく幼稚園児・小学生・中学生の興味・関心の高まり、中高連携による異校種の教科指導研修を通じた授業改善など教職員のスキルアップにもつながっている。

[アンケート結果3] あなたの学校の魅力・特色は、地域に知られていますか。



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

#### ④ その他

- ・ 明確な目的を示し、特別に措置された予算によって運営する方式が、効果的に高等学校の魅力・特色づくりを推進させることができた重要なポイントである。
- ・ 総合学科、単位制高等学校、専門学科、特色ある専門学科、コース・特色ある類型といったシステム面に加え、ソフト面でインスパイア・ハイスクール事業と地域貢献・社会貢献の2本の柱が立ったと評価できる。
- ・ 生徒にとっての魅力・特色づくりのコンセプトは、今後の教育を展開するためのキーワードであり、インスパイア・ハイスクール事業における推進分野が、今後の兵庫の教育推進にかかる取組の新たな手がかりとなる。

## (2) 課題

- ・ 高等学校の教育目標と魅力・特色づくりの取組との関係の明確化
- ・ 魅力・特色づくりの取組とインスパイア・ハイスクール事業との関係の明確化と効果的な活用
- ・ 生徒・保護者のニーズに対応した教育活動の更なる深化に向けた適切な評価・検証

[アンケート結果 4・5・6 参照]

- ・ 継続した取組とするための校内推進体制の整備
- ・ 幼稚園児・小学生・中学生とその保護者等に対する十分な広報活動

[アンケート結果 7 参照]

### ① 高等学校の教育目標と生徒のニーズとの関係

#### ○ 高等学校の教育目標との関係

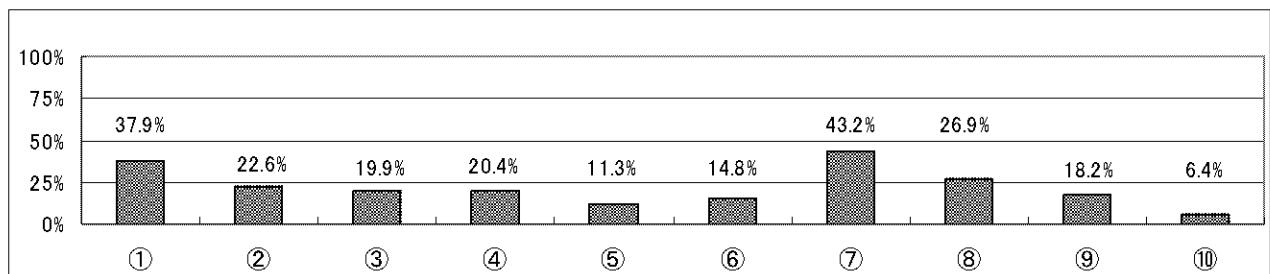
- ・ 社会の変化に対応しつつ、最低限身に付けるべき基礎・基本などの基盤的な力の上に、多様化する生徒・保護者・地域社会のニーズに応えつつ、個性の伸長を支える事業という位置付けを明確にする必要がある。
- ・ どのような高校生を育てようとしているのかというミッション（使命）を明確に示し、高等学校における取組と事業との関係を確実に位置付ける必要がある。
- ・ 高等学校の取組を改善し、充実していくためには、事業目的に対する数値的な評価を行う必要がある。
- ・ これまで高校生地域貢献事業などを活用して魅力・特色づくりを推進している高等学校においては、インスパイア・ハイスクール事業との関連を整理し、効果的に活用する必要がある。

#### ○ 進路実現に向けた生徒の意欲向上や、生徒のニーズに合った取組

- ・ 一部の生徒は、入学前に期待していた教育内容と、実際に学んだ内容にギャップを感じていることに留意すべきである。
- ・ 生徒・保護者・地域社会にどのようなニーズがあるのかという視点を持つことが必要であり、生徒のニーズ調査等に基づく取組の改善を通じて、生徒の興味・関心を一層高めることが求められる。
- ・ 生徒の進路実現に必要な学力の向上に結びついているのか、進路保障にどう結びつけるのかという視点で、高等学校の教育内容を精選する必要がある。

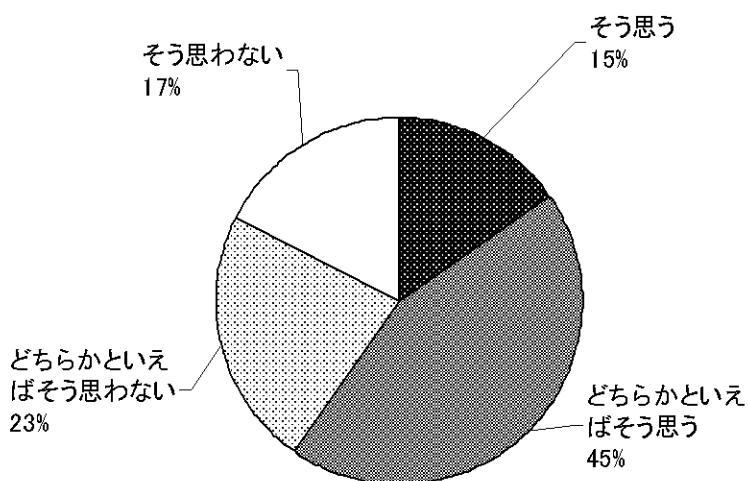
[アンケート結果 4] あなたが中学校時代に、高校で学びたい（体験したい）と思っていたことは何ですか。（3つまで選んでください。）

- ①大学や研究機関、企業等と連携した実践的な講義や演習、共同研究、共同開発
- ②地域住民や自治会等と連携した清掃などのボランティア活動
- ③研究成果や実習成果等の報告会・発表会
- ④スポーツ選手や技術者、演出家等の専門家による実技などの直接指導
- ⑤自然科学系や技能、芸術等の各種コンテストへの参加
- ⑥地域の福祉施設等との交流によるボランティア活動
- ⑦将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）
- ⑧専門家による先端技術や体験談等の講演会
- ⑨海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流
- ⑩その他



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

[アンケート結果5] あなたが入学前に想像していた「あなたの学校の魅力・特色」は期待したとおりでしたか。



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

## ② 質の向上と高等学校教育全体の活性化への方針

### ○ 生徒の学習と体験の質を高める取組

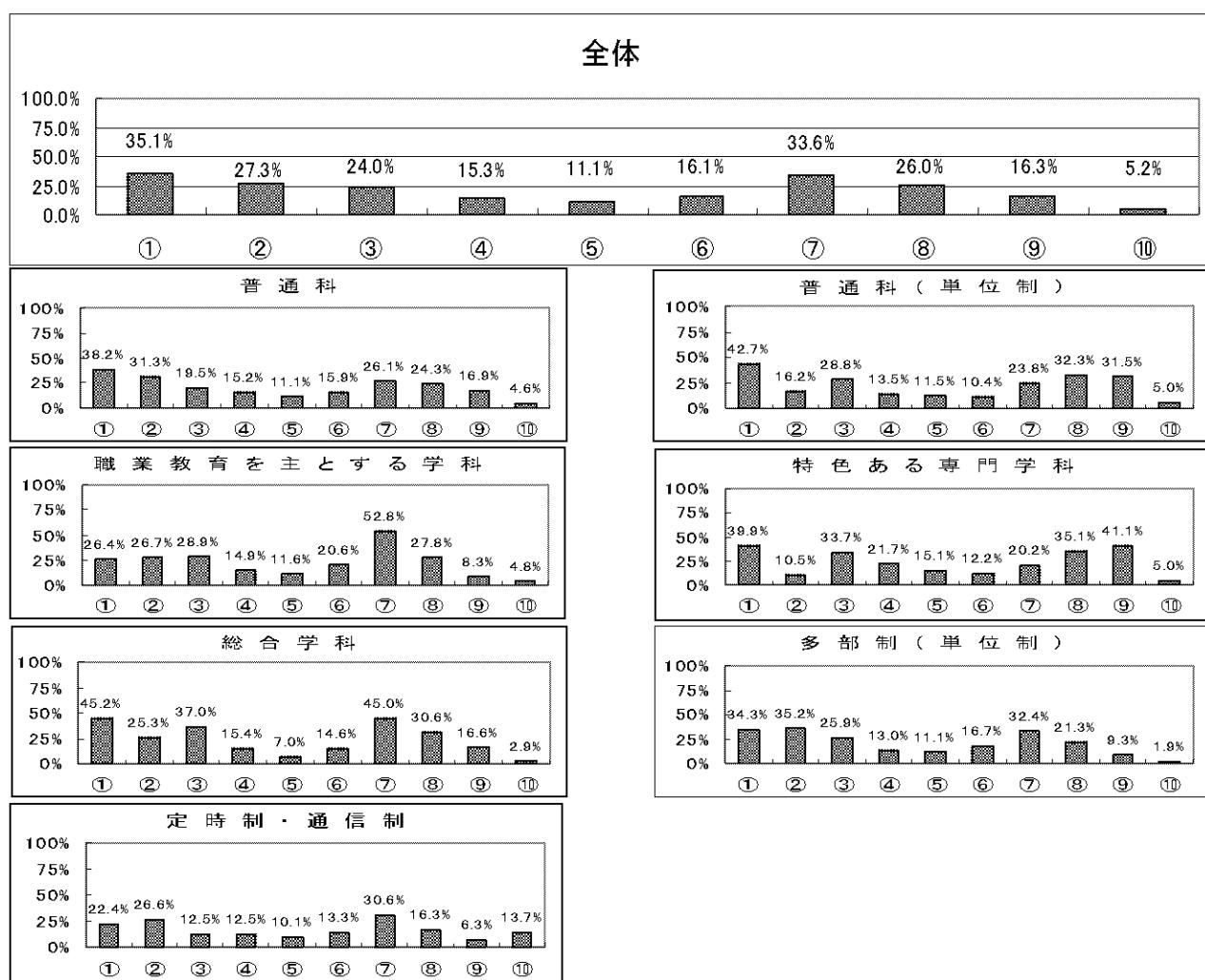
- ミッションを明確にすることを前提とし、高等学校の教育力の向上及び生徒の学習や体験の質の向上などの教育目的が明確でない場合には県が適切な指導を行い、一方で、取組の目的が明確であれば一層の支援を行うという事業採択の方針を高等学校へ周知することが大切である。
- 高等学校の魅力・特色の一つとして、社会の変化とともに高等学校教育に求められるグローバル人材の育成、キャリア教育、ボランティア・福祉教育、理数教育の充実に加え、社会人としての礼儀やマナー指導等の社会人として身に付けるべき力を高める取組等を推進することが大切である。

### ○ 高等学校のミッションに基づく系統的・組織的な取組

- 高等学校における魅力・特色づくりの取組が、一過性で単発のイベントのような取組に見えてしまうケースがあることから、高等学校では、それぞれの取組を、年間計画などの全体的な計画の中で系統的に位置付ける必要がある。
- 事業の取組が、特定の教員の能力に頼るものであったり、一部の生徒の活動に限られるものであったりする場合には、全校的な取組へと拡大する必要がある。また、前年の取組内容を継続的に見直し、翌年度への改善につなげる必要がある。

〔アンケート結果6〕 高校入学後、あなたが興味・関心を持った学び（体験）は何ですか。（3つまで選んでください。）

- ①大学や研究機関、企業等と連携した実践的な講義や演習、共同研究、共同開発
- ②地域住民や自治会等と連携した清掃などのボランティア活動
- ③研究成果や実習成果等の報告会・発表会
- ④スポーツ選手や技術者、演出家等の専門家による実技などの直接指導
- ⑤自然科学系や技能、芸術等の各種コンテストへの参加
- ⑥地域の福祉施設等との交流によるボランティア活動
- ⑦将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）
- ⑧専門家による先端技術や体験談等の講演会
- ⑨海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流
- ⑩その他



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

### ③ 普通科高等学校の取組

#### ○ 普通科高等学校における魅力・特色づくりの更なる明確化

- ・ 職業教育を中心とする学科の魅力・特色は、学科の特性から、中学生・保護者や地域の人々からもはっきりと見え、魅力・特色としての発信も比較的行いやすい利点があるが、普通科については、その高等学校のミッションが、通常の高等学校教育の目標以上のものとして外部に打ち出し

ににくい状況が予想されるため、その実現に向けた取組の内容や方法については、一層の創意・工夫が必要である。

- ・ 普通科高等学校においては、魅力・特色づくりに向けた取組として、例えば、大学教授等の専門家による講義については、高等学校のミッションに基づく系統的なものであることを明確にしたり、生徒に多くの実体験の場を与えるようにしたりするなど、教育課程における位置付けを具体的に検討する必要がある。

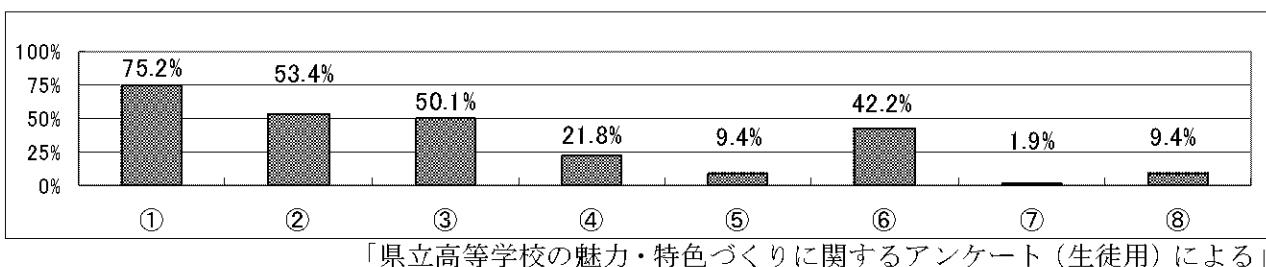
#### ④ 広報活動の充実

##### ○ 幼稚園・小学校・中学校、地域など県民への広報活動の充実

- ・ インスパイア・ハイスクール事業等の魅力・特色づくりの取組は、高等学校関係者の間では広く知られているが、その成果の幼稚園・小学校・中学校の教職員、幼稚園児・小学生・中学生、とその保護者など県民への周知は、必ずしも進んでいるとは言えない。
- ・ 中学生は、高等学校の魅力・特色の情報を得る方法として、中学校の教員や身近な家族、友人からだけでなく、オープン・ハイスクールから得ている割合が高い。
- ・ 今後、生徒・保護者の視点に立った高等学校のホームページ、オープン・ハイスクールの在り方などの見直しも含めた広報活動の充実が課題である。

[アンケート結果7] 入学前、あなたの在籍する高校の情報は、主に誰から（どこで）得ることがで  
きましたか。（3つまで選んでください。）

- ①中学校の先生 ②家族・親戚 ③知人・先輩・友人 ④塾の先生  
⑤教育委員会のホームページ・パンフレット  
⑥高等学校のオープン・ハイスクール、体験学習会等 ⑦新聞 ⑧その他



「県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート（生徒用）による」

## 2 今後の方向性

### (1) 一層の魅力・特色づくりに向けた取組の充実

- ・ 21世紀の社会を担う人づくりの視点から、志を持ち、自らの夢の実現に向け努力する高校生が魅力を感じる教育内容を展開する必要がある。
- ・ 生徒の意欲を一層高めるために、学習や体験の質の向上を図るとともに、生徒・保護者・地域社会のニーズを把握し、生徒の興味・関心を深める教育内容・方法を工夫することが求められる。
- ・ 魅力・特色づくりに対する生徒の理解を深め、それを学習意欲の向上につなげるとともに、保護者や地域から高等学校の教育活動への理解と協力を得るために、高等学校のミッションを明確にし、それを教育目標に反映させることにより、魅力・特色づくりを一層推進することが必要である。
- ・ すべての高等学校がインスパイア・ハイスクール事業を高等学校の魅力・特色づくり推進の核として積極的に活用する必要がある。
- ・ これまで成果をあげている取組を充実させることに加え、社会の変化によって今日の高等学校教育に求められるグローバル人材の育成、国際理解教育、キャリア教育、ボランティア・福祉教育、理数教育など、新たな分野での魅力・特色づくりに取り組むことも大切である。
- ・ 普通科高等学校においては、独自の伝統となっている取組に加え、更なる創意・工夫によって、生徒に様々な学習や体験の機会を提供し、新たな伝統の芽生えへつなげる必要がある。

#### ① インスパイア・ハイスクール事業の検証からの取組

- 高等学校の教育目標と魅力・特色づくりの取組の関係を明確化し、効果的に教育の質の向上を図ることが求められる。
  - ・ 高等学校が取り組む魅力・特色づくりの方針を明確に示すことが、生徒の学習に対する意欲の向上につながる。
  - ・ 高等学校が自らのミッションを明確にし、教育目標の具体化に向けて取り組む必要がある。例えば、グローバル人材の育成、国際理解教育、情報教育、キャリア教育、ボランティア・福祉教育、理数教育、社会人基礎力の育成などにおける、時代の流れにそった新しい取組を企画・推進し、高等学校の新たな伝統の芽生えとすること、従来の伝統的な取組を発展させ、さらに深化させることなどが考えられる。
  - ・ 魅力・特色づくりの取組は、単なるイベントの事業でなく、高等学校の特色化に結びつけるものとして生徒・保護者・地域社会のニーズにも整合した内容とすべきである。
- 高等学校が目指している魅力・特色づくりの方向性を明確に示し、その実現に向けた取組を一層推進することが求められる。
  - ・ これまで高等学校の魅力・特色づくりが本事業により大きく前進していることからも、インスパイア・ハイスクール事業を本県の重要な事業として位置付け、今後も発展させていくとともに、すべての高等学校で活用し、魅力・特色づくりを推進する必要がある。
  - ・ インスパイア・ハイスクール事業は、高校生に対し、様々な体験をさせることにより学習意欲を向上させ、知識・技能の定着を図るとともに、より専門性を高める教育活動をさらにインスピアイア（鼓舞）するという位置付けと考えられる。
  - ・ 高等学校の教育目標の実現のために更なる魅力・特色づくりの発展に活用していくという事業目的を明確にした上で、広く県民に本事業における取組内容を情報発信していく必要がある。
  - ・ 現在の魅力・特色づくりの取組を基本に、教職員に魅力・特色づくりを推進する新たな取組の提案を求めるなど、高等学校全体の取組となるような体制を整備する必要がある。

## ② 生徒の学習や体験の質を高めるための取組内容の充実

- 生徒の学習や体験の質を一層高めるために、生徒・保護者のニーズを踏まえ、学習意欲の向上及び希望進路の選択につながるような取組内容の充実が求められる。
  - ・ 兵庫県の高等学校教育の質の向上に向け、高等学校では、教員から見れば教育の質を高めるもの、生徒から見れば学習や体験の質を高める実感を伴うものという視点を明確にして事業に取り組むことが大切である。
  - ・ 教育目標の達成に向け、魅力・特色づくりに向けた取組の成果について、定期的・定量的な評価を工夫することも大切である。
  - ・ 高等学校における取組内容の充実にあたっては、キャリア教育の視点もまた大切であり、生徒・保護者・地域社会の多様なニーズに対応し、生徒の学習意欲の向上、進学・就職等のキャリアアップにつながる取組を充実させる必要がある。
  - ・ 魅力・特色づくりを目指した取組に係る経費が得られることは、これらの取組に継続性を持たせることにつながり、地域における高等学校の魅力・特色づくりに対する認知度を一層高めることにつながる。
- 普通科高等学校における魅力・特色づくりの明確化に向けた更なる創意・工夫が求められる。
  - ・ 普通科高等学校においても、「地域のリーダーを育てる」「世界のリーダーを育てる」等、様々な人づくりのミッションがあり、それぞれのミッションを具現すべく生徒の実体験の積み重ね等の具体的な取組を工夫する必要がある。
  - ・ 普通科高等学校における一つのミッションである大学等への進学実績の向上につながる取組もまた高等学校における魅力・特色づくりと捉える必要がある。

## ③ 兵庫型「体験教育」の視点

- 生徒の主体的・自発的な取組を通して、自ら考え行動する力を一層育むことをねらった学習や体験の質の向上が求められる。
  - ・ インスパイア・ハイスクール事業は、生徒の学びをインスピアイアするものであり、取組内容によっては兵庫型「体験教育」の一環として位置付けることができるものもある。
  - ・ 従来の教育活動では実施できなかつた多様な学習や体験に取り組むことを通じて、自己認識を深め、自尊感情を高めるとともに、自ら主体的に考え行動する力を一層育むことが可能になる。
  - ・ 小学校での「自然学校推進事業」、中学校での「トライやる・ウィーク」などの体験を更に発展させる必要がある。

### 兵庫型「体験教育」主要6事業

小学校	環境体験 〔小学校3年生〕	環境体験事業 H19~ 里山や田畠、川や海岸などの自然に触れることによって、自然に対する畏敬の念をはじめ、命の大切さ、命のつながり、自然の美しさに感動する心など精神的な豊かさを得るとともに、「生きる力」を養う
	自然体験 〔小学校5年生〕	自然学校推進事業 S63~ 自然観察や登山、野外炊事やテント泊など、学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が自然、地域社会とふれ合い、理解を深めるなど、さまざまな体験活動を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心をはぐくむなど「生きる力」を育成する

**中学校****芸術文化体験**

〔中学校1年生〕

**社会体験**

〔中学校2年生〕

**青少年芸術体験事業「わくわくオーケストラ教室」 H18～**

県立芸術文化センターにおいて、本格的な交響楽団の演奏に親しむことや関連施設の見学を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を培い、豊かな情操を養う

**地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業 H10～**

職場体験活動やボランティア・福祉体験活動など、地域や自然の中で生徒の主体性を尊重した体験活動を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援するなど「生きる力」の育成を図る

**高等学校****ボランティア体験**

〔高等学校1年生〕

**就業体験**

〔高等学校2年生〕

**高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～ H17～**

高校生が、時代の変化に合わせ将来にわたって積極的に地域を支える人材としての自覚と態度を養うため、全県立高等学校において、クラス、部活動、などのグループ単位で地域社会に貢献できる取組を企画し、「地域社会の力となる」活動を実施して、高校生の地域社会に対する参画意識を高めるとともに、社会性や自主性など豊かな人間性をはぐくむ

**高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～ H17～**

全県立高等学校において、産業の現場などで、学習内容や進路に関した就業体験（インターンシップ）を実施し、生徒が自己の将来の在り方・生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするとともに、生徒に夢を実現できる力を、身に付けさせる

## (2) 高等学校の取組の評価・検証と行政支援の充実

- ・ 教育効果の定期的な評価・検証を積極的に実施することにより、常に教育内容等の改善に努めることが求められる。
- ・ 魅力・特色づくりの取組が一部ではなく校内全体へと拡がるよう、校内体制の整備や、取組内容の工夫が求められる。
- ・ 新しい創意工夫により定着しつつある教育活動が、インスパイア・ハイスクール事業の廃止により中断され、これまで認知されてきた高等学校の魅力・特色が失われることのないよう、今後も行政からの、継続・充実した支援が強く望まれる。
- ・ 高等学校教育において最低限身に付けるべき基礎・基本の上に立ち、多様化する生徒・保護者のニーズに応えるべく魅力・特色ある教育課程づくりに取り組むとともに、行政支援を充実させることが県教育委員会・高等学校等の使命である。
- ・ 特に、中学生にとって多様な高等学校選択を確保するとともに、魅力ある高等学校づくりをさらに推進させることを目指した新通学区域の実施に向け、魅力・特色づくりの更なる支援を充実する必要がある。
- ・ 行政支援の充実、世界的な社会状況・生徒・保護者・地域社会のニーズに応じた魅力・特色づくりを更に進めるためには、予算的支援の拡充に加え、事業の選択と集中を意識しながら支援分野・支援額の適切な対応が必要である。

### ① 質の向上と取組の評価・検証

- 高等学校における教育内容をより効果的なものとするために、継続的な評価・検証が望まれる。
  - ・ P D C Aサイクルを活用して取組に対する評価・検証を行うとともに、常に改善・充実に努める必要がある。
  - ・ 教育目標を生徒・保護者等に明確に示した上で評価指標の設定による効果の測定・評価を実施し、客観性を高める検証に努めることが大切である。

### ② 新たな展望に基づく取組

- 高等学校における魅力・特色づくりの取組の中で、成果が上がっている取組についてはさらに工夫・改善を行い、一層の充実を図ることが望まれる。
  - ・ 生徒の自主性や向上心等が高まるなどの成果が上がっている取組については、世界的な社会状況・生徒・保護者・地域社会のニーズに応えるという視点から、今後も充実させるべきである。
  - ・ すでに高校生地域貢献事業や学力向上推進プロジェクト等の事業を活用して、魅力・特色づくりを進めてきた高等学校については、インスパイア・ハイスクール事業が、これらの高等学校の取組の工夫・改善により、さらなる充実を図るものであることから、現行の発展的な取組をインスパイア・ハイスクール事業の枠組みに位置付けることが望まれる。

### ○ 将来を見据え、スペシャリストの育成等の視点に立った学びの充実が望まれる。

- ・ 県教育委員会は、グローバルな視点から見たこれからの社会状況を考え、どのような人材を育成していくかという大きな視野に立った高等学校づくりを意識する必要がある。
- ・ これから日本を背負う世代の育成という視点から見ると、エネルギー、医療・介護、農林漁業等の分野で若い人を育てるといった視点での魅力・特色づくりができるような支援も必要である。
- ・ インスパイア・ハイスクール事業のカテゴリーの中に、新たにグローバルな視点からみた国際

交流や国際理解などの分野を戦略的に取り入れるなど、これまで設定してきた枠組みに固定化せず、これからの中長期的な社会に対応する柔軟な支援が必要である。

- ・ 日本の将来的な発展を見据え、特に理数教育の分野等において、技術者の養成につながるカリキュラムを充実する必要がある。
- ・ 社会人としてのマナーや協力して課題を解決する力等を身に付けるなど、社会人として身に付けるべき力を育成するといった視点や、地域の「まちづくり」との連携や貢献という視点についても積極的に検討する必要がある。

### ③ 積極的な行政支援への期待

- ・ 現在、魅力・特色づくりの途上段階にある高等学校への支援方策の検討
- ・ 魅力・特色づくりのためのインスパイア・ハイスクール事業と高校生地域貢献事業等との関連の整理と高等学校サイドに立った効果的な支援方策の検討
- ・ 社会の変化とともに高等学校教育に求められるグローバル人材の育成、キャリア教育、ボランティア・福祉教育、理数教育などの支援分野の弾力化
- ・ 魅力・特色づくりの取組に係る広報の充実検討

### (3) 広報活動の充実

- 幼稚園児・小学生・中学生とその保護者、地域の方々から高等学校の魅力・特色づくりの取組を理解されることは、生徒の進学意欲を向上させるとともに高等学校の活性化につながるため、広報活動の一層の工夫・充実が望まれる。
- 幼稚園児・小学生・中学生の高等学校選択の参考となるように、ホームページ、オープン・ハイスクールの工夫や高等学校紹介パンフレット等の作成・配布、マスコミの活用など、様々な手段を講じて高等学校の魅力・特色に係る情報を発信することが求められる。

#### ① 幼稚園児・小学生・中学生とその保護者に関する取組

- 高等学校の魅力・特色づくりの取組を積極的に情報発信し、県民の理解を高めることが望まれる。
  - インスパイア・ハイスクール事業の趣旨である「各高等学校における教育活動の特色づくりを一層進めるとともに、志を持ち、自らの夢の実現に向け努力する高校生が魅力を感じる教育内容を展開するための創意工夫を積極的に支援することで、『魅力あるひょうごの高校づくり』を推進する。」という考え方を全教職員が共有し、魅力・特色づくりの取組が今まで以上に地域の幼稚園児・小学生・中学生及びその保護者、地域の方々に理解され、支持されるよう高等学校が情報発信する工夫が必要である。
  - 高等学校の魅力・特色づくりに係る広報は、中学生とその保護者だけでなく、幼稚園児・小学生とその保護者や幼稚園・小学校・中学校の教職員も対象にすべきであり、中・高連携だけでなく小・高連携、幼・高連携の取組をより推進する環境づくりも大切である。
- 生徒の高等学校選択を支援するため、オープン・ハイスクールや高等学校説明パンフレット等の配布等、情報を発信する機会を増やす工夫が望まれる。
  - 中学生にとっての各高等学校の魅力・特色づくりの情報源は、中学校の教職員とオープン・ハイスクールが基本となっていることから、中学校側への適切な情報提供とオープン・ハイスクールの在り方を検討し、充実させる必要がある。さらに、中高一貫教育校も選択肢の一つであることから、小学校への情報発信も検討することが望まれる。
  - 高等学校の教育活動の充実・発展のためにも、高等学校から幼稚園児・小学生とその保護者、学校関係者への情報提供（説明会の開催やパンフレット配布など）の機会を増やすなど、広報活動を充実させる必要がある。

#### ② 県民・地域住民に関する取組

- それぞれの高等学校の学区や地域住民の理解と支援を得るために周知を図ることが望まれる。
  - 開かれた学校づくりの観点から、各高等学校における魅力・特色づくりの取組の理解を得ることは重要であり、地域の高等学校としての認知と理解を求める広報活動の展開が求められる。
  - 各高等学校の様々な教育活動に対する地域住民の認知と理解は、地域との連携と支援の関係が深まるとともに、生徒の意欲向上や高等学校の活性化につながる。

### 3 今後の県立高等学校の在り方とのかかわりについて

当委員会による評価・検証においては、「県立高等学校の魅力・特色づくり」に関する事業の取組が、各高等学校における魅力・特色づくりを推進するとともに、教育活動全体の活性化と開かれた学校づくりに大きく寄与しているとの結論を得ることができた。

これは、高等学校の新通学区域での新たな「魅力・特色づくり」の基盤となるものであると考えられる。今後、すべての高等学校において、この取組を一層発展させられることを強く期待する。



# 〔参考資料〕

○ 平成24年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～ 実施要項	18
○ 平成24年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～ 概念図	20
○ 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会に係る学校視察	21
○ 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証に係るアンケート結果	24
○ 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会設置要綱	61
○ 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会審議経過	62
○ 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会委員	63

# 平成24年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業 ～インスパイア・ハイスクール～ 実施要項

兵庫県教育委員会

## 1 趣 旨

兵庫県では平成12年度から「県立高等学校教育改革第一次実施計画」を策定し、国際化、情報化、少子・高齢化や生徒の多様化、生涯学習社会の進展等に伴い直面する様々な課題に対応し、子どもたちの「生きる力」の育成をめざし、生徒が成就感や達成感をもって、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを推進してきた。

また、平成21年度からは「県立高等学校教育改革第二次実施計画」を策定し、各学校が生徒の多様な学習ニーズに対応した教育内容の一層の充実を推進することとしている。

そこで、各学校における教育活動の特色づくりを一層進めるとともに、志を持ち、自らの夢の実現に向け努力する高校生が魅力を感じる教育内容を展開するための創意工夫を積極的に支援することで、「魅力あるひょうごの学校づくり」を推進する。

## 2 実践校の指定

県立高等学校及び県立中等教育学校のうち、提出された事業計画書及び当該校の状況等を総合的に判断し、実践校として指定する。

## 3 実践内容

次の4つのテーマについて、各学校の特色づくりを一層進めるための実践を行う。

### (1) 中高連携・地域連携重点指定校～中高連携や地域連携の推進を目指した魅力づくり～

① 1学年3学級以下の小規模校の活性化を推進するため、地域との連携方策や連携型中高一貫教育校への改編等を検討する協議会の開催、中高連携・地域連携の取組の実施などを支援する。

② 地域の中学生が夢実現のために積極的に入学を志し、将来の地域を支えるコミュニティリーダーの育成を目指す学校づくりを推進するため、中高連携カリキュラムや授業方法の研究、中高合同での学校行事や部活動の実施等、中高連携・地域連携の取組の実施などを支援する。

### (2) スペシャリスト育成重点指定校～スペシャリストの育成を目指した魅力づくり～

専門学科における特色ある学びをさらに特化し、世界で活躍するスペシャリストの育成を目指す学校づくりを推進するため、著名な講師の招聘や設備の充実したホールでの発表会の実施などを支援する。

### (3) 理数教育等学力向上重点指定校～学力向上を目指した魅力づくり～

理数教育や国際教育を推進し、「知識基盤社会」の時代において主体的に行動し、将来の科学技術・学術関係で活躍できる人材の育成を目指す学校づくりを進めるため、理数や国際に関する問題解決的な学習や課題研究、高大連携などを支援する。

### (4) 特色づくり実践指定校～各校のステップアップによる魅力づくり～

特色ある教育活動を展開し、独自のアイデアや創意工夫による魅力ある学校づくりを推進するため、生徒の興味・関心の高い教材開発、授業力向上のためのアドバイザーの招致、中学校等への広報の充実などを支援する。

#### 4 指定期間

3 の(1)(2)(3)は、原則として平成24年度までの継続指定とする。  
また、3の(4)は原則として平成24年度1年間の指定とする。

#### 5 実践校の指定

- (1) 実践校の指定を希望する県立高等学校及び県立中等教育学校は、希望調書及び事業計画書1・2各1部を作成し（継続分含む）、平成24年2月24日（金）までに高校教育課長あて提出する。
- (2) 県教育委員会は、提出された事業計画書を審査し、実践校を指定する。

#### 6 事業の計画

- (1) 提出された事業計画書に基づき、趣旨に沿った事業について承認する。
- (2) 計画内容に変更の必要が生じた場合は、速やかに高校教育課長と協議する。

#### 7 事業の報告

- (1) 事業実施後は、事業報告書1・2各1部を成果や実績のわかるよう作成し、平成25年3月15日（金）までに、高校教育課長あて提出する。
- (2) 併せて、事業の実施内容や成果を記載した事業記録（活動の具体的な内容の記録、写真、ビデオ、参加生徒の感想文等）を添付する。⇒A4サイズでまとめること。

#### 8 実施経費

- (1) 事業の実施にかかる経費は、予算の範囲内で令達する。
- (2) 事業変更にかかる経費については、原則として、当初の承認された予算総額の範囲内とする。
- (3) 予算の執行にあたっては、財務規則等に基づいて適正に執行する。

# 平成24年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業

## —インスピア・ハイスクール—

### 中高連携・地域連携重点指定校

1学年3クラス以下の高校の活性化を目指す！

多様で活力ある教育活動の実施

地域が応援する中高一貫教育校を目指す！

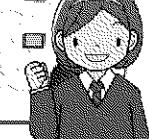
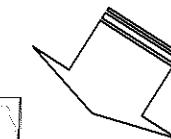
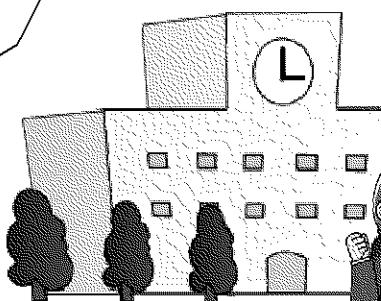
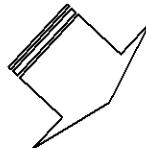
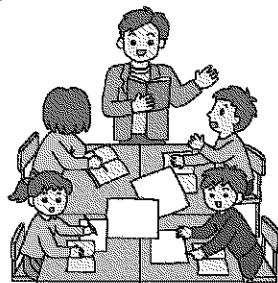
中学と高校の教育課程を接続

地域住民による支援

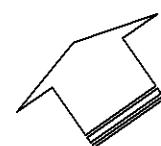
地域の中学生が学びたい高校を目指す！

中高連携事業の実施

中高共同による授業方法の研究



魅力あるひょうごの高校づくり



### 理数教育等学力向上重点指定校

将来のノーベル賞受賞者が育つ学校を目指す！

大学や企業との共同研究

国際教育の中心となる学校を目指す！

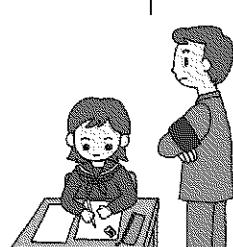
国際系学科・コース設置校によるネットワークの形成  
英語を活用したイベント



### 特色づくり実践指定校

オンリーワンの魅力を持つ学校を目指す！

中学校とのネットワークづくり  
学習アドバイザーの招致  
興味・関心を高める教材の開発  
授業実践記録集の作成  
特色ある類型の研究



## 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会に係る学校視察

### 〔目的〕

高等学校の魅力・特色づくりにおける主な支援事業である「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」を中心とした実施状況等を現地視察し、成果・課題を把握し、魅力・特色づくり事業にかかる評価・検証と、今後の魅力・特色づくりの支援の方向性・充実方策の検討の参考とする。

### 〔実施期間〕

平成24年7月下旬～9月

#### 県立西脇高等学校



貸店舗での一日シェフ体験実習

#### 〔生活情報科・科学教育類型〕

- ・科目「課題研究」の授業の一環として西脇市内の貸店舗を活用して実施する一日シェフ体験実習視察
- ・科学教育類型の教育活動についての聞き取り

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、生活情報科では、地元企業と連携した播州織のファッショショニ、科学教育類型では、大学や研究所での実習など様々な体験活動を実施している。

生徒は、学習に対して意欲的に取り組むようになったとともに、他の学習活動にも好影響が現れている。

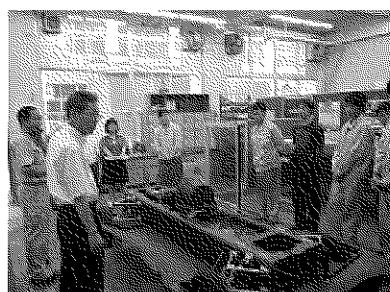
#### 〔機械工学部〕

- ・自作の部品等を使ってソーラーカーを作製・改良することを通じた技術力向上についての聞き取り

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、大学や企業の専門家による直接指導や、大学の研究チームとの合同製作など、様々な技術力向上に向けた取組を実施している。

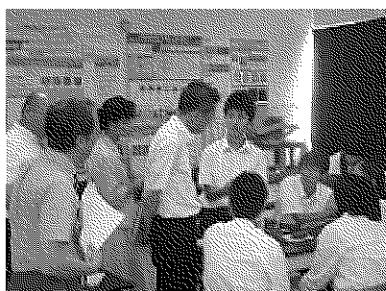
旋盤を使った精度の高い部品製作などの実体験は、生徒のスペシャリストとしての自覚を高めるとともに、将来の進路実現に向けた学習意欲の向上につながっている。

#### 県立西脇工業高等学校



ソーラーカー製作

#### 県立加古川東高等学校



地元産出の竜山石の研究についての考察

#### 〔理数科〕

- ・地元産出の竜山石の特性研究視察
- ・国の事業であるSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の指定を受けての教育活動についての聞き取り

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、探究活動とSSH指定校としての取組をさらに充実させるために、大学や研究施設の専門家による特別講義や、専門家をアドバイザーとした課題研究などを実施している。

生徒は、先端技術にふれながら科学知識を身に付けるとともに、探究的な活動、英語での研究発表等の学習に、積極的に取り組んでいる。

### [美術科・理数探究類型]

- ・卒業作品製作視察
- ・理数探究類型の教育活動についての聞き取り

県下唯一の美術科では、3年間の集大成として、日本画・油絵・彫刻等の卒業作品による美術科展を開催している。

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、理数探究類型では、大学の専門家による講演や、大学での工学・理学・農学・薬学等の系統に分かれた講義体験、大学の設備を使った実習・研究などを実施している。

生徒が、遺伝子分析等の様々な実習を体験することによって、理数教科に対する学習意欲の高まりがみられる。

### 県立明石高等学校



卒業作品製作

### 県立神戸商業高等学校



企業と共同開発した商品等の販売実習

### [商業科]

- ・専門科目「課題研究」の授業の一環として地元の市場の店舗を借りて実施する企業と共同開発した商品の販売実習「県商生活」視察

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、販売実習に必要な保冷庫等の備品購入や、地域に販売実習をPRするチラシの作成・配布を行っている。

販売実習だけでなく、商品開発に向けたマーケティングから企業担当者へのプレゼンテーション、商品化に向けた共同開発、商品の仕入れといった一連の実習が、生徒の学習内容の理解を深めている。

### [阪神昆陽特別支援学校との交流及び共同学習]

- ・音楽の授業による交流及び共同学習視察

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、ノーマライゼーションの理念を学習する学校設定科目「ノーマライゼーション」の取組の中で、専門家による講演会や介助体験など様々な実習を行っている。

生徒は、同じ教室や施設における交流及び共同学習等の体験を通じて、ノーマライゼーションの理念の実現に向けた実践を積み重ねている。

### 県立阪神昆陽高等学校



音楽の授業による交流及び共同学習

### 県立西宮今津高等学校



TV会議システムを活用した国際交流

### [テレビ会議システムを活用した国際交流]

- ・学校設定科目「情報コミュニケーション」の授業の一環として実施する、インドネシアの高校における日本語学習の支援等による国際交流視察

インスパイア・ハイスクール事業の支援により、大学教授等によるテレビ会議システム活用に必要な専門知識の指導や、効果的な日本語学習教材の作成指導を実施している。

必要な資料作成と理解しやすい説明方法について互いに議論すること、異文化に触れ、互いの文化を理解し合うことを通じて、生徒の言語力が高められるとともに、国際的な視野の拡大にもつながっている。

### [人と自然科・総合学科]

- ・人と自然科のプロジェクト発表視察
- ・総合学科の科目「産業社会と人間」の授業の一環として実施する、外部講師による「ニート予防を目指した金融基礎教育プログラム」の実習視察

インスパイア・ハイスクールの支援により、地域特産物の生産農家による技術指導や、専門家等による社会人基礎力を身に付けるための講演などを実施している。

様々な人との交流や実習が、学習に対する生徒の理解を深めるとともに、数多くの発表を経験することでプレゼンテーション力を高めている。

### 県立有馬高等学校



人と自然科におけるプロジェクト発表

### 県立三田西陵高等学校



保育園での保育士体験実習

### [子どもみらい類型]

- ・学校設定科目「教育入門」の授業の一環として市内の保育園で実施する保育士体験実習視察

インスパイア・ハイスクールの支援により、大学教授等による教職を目指すために必要な知識の講義と実習や、保育園や幼稚園、小学校での実習に必要な教材製作を行っている。

園児・児童と直接ふれあう場を数多く経験することで、生徒は、将来の夢の実現に向けて学習への意欲を高め、取組に対して積極的になるとともに、コミュニケーション力を向上させている。

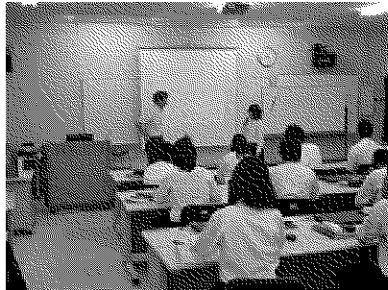
### [環境防災科]

- ・学校設定科目「社会環境と防災」の授業の一環として実施する、自然環境や社会環境との関わりを踏まえた災害に強い街づくり研究視察

インスパイア・ハイスクールの支援により、生徒が被災地等でのボランティア活動を展開するとともに、専門家等による防災実習の実施、他校と連携した様々な防災に関する活動を行っている。

生徒は、様々な実習・体験と、多くの人との交流を通じて自信を深めるとともに、主体的・自発的に考えて行動する積極性の高まりが見られる。

### 県立舞子高等学校



災害に強い街づくりについての研究活動

# 県立高等学校の魅力・特色づくりに関するアンケート結果

## 1 目的

本年度、県教育委員会では、県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会を設置し、今後の県立高等学校の魅力化・特色化の検討並びに充実方策の検討を行っているところである。

そこで、高等学校の魅力・特色づくりにおける代表的な支援事業である「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～」を中心とした取組の成果・課題を検証する参考資料とするため、生徒及び学校の変化を調査する。

## 2 対象

全県立高等学校（150校）

※定期制（全定期制）、分校を1校とした県立高等学校及び中等教育学校

## 3 期間

平成24年6月19日（火）～7月19日（木）

## 4 調査方法

(1) 生徒用アンケート 150校 6,412人（男：3,143人 女：3,269人）

3年（次）のうち1学級の生徒（抽出）

※複数の学科設置校については、学科ごとに1学級抽出する。

※平成23年度以降に設置された学科については、最高学年の生徒を対象とする。

(2) 学校長用アンケート 150校 のべ150人（全定期制及び本校分校の兼務を含む）

学校長1名

(3) 学校関係者用アンケート 150校 397人

学校評議員または保護者等の学校関係者2名程度

## 5 結果分析における分類方法

調査項目によっては、県立高等学校を次の（1）～（7）のように分類し、結果を分析する。

(1) 普通科：84校 3068人（男：1510人 女：1,558人）

・ 単位制高等学校を除く全日制普通科高校（中等教育学校、分校を含む）

・ 国語、地理歴史、数学、理科、英語などの普通教科を中心に学習

・ 生徒の進路希望や興味・関心に応じて系統的に教科・科目が選択できるよう、文系、理系以外にも、芸術類型、生命科学類型、福祉類型、教育類型などの特色ある「類型」を設置している学校もある。

・ 学校や地域の実態、生徒の学習ニーズ等を踏まえ、それぞれの分野や領域に関する学習を視野に入れた、国際文化系コース、自然科学系コース、健康福祉系コース、総合人間コースを設置

(2) 普通科（単位制）：7校 260人（男：107人 女：153人）

・ 全日制普通科単位制高校

・ 学年の区別なく、必要な単位を修得することによって卒業が認められる。

〔芦屋、北須磨、尼崎稻園、西宮、三田祥雲館、加古川北、姫路東〕

(3) 職業教育を主とする学科：42校 1452人（男：717人 女：735人）

・ 農業や工業、商業など、各分野におけるスペシャリストを目指して、専門的な内容を学習  
ア 農業に関する学科（10校）

〔氷上、篠山産業、篠山東雲、有馬、農業、播磨農業、上郡、佐用、山崎、但馬農業〕

イ 工業に関する学科（12校）

兵庫工業、尼崎工業、篠山産業、東播工業、西脇工業、小野工業、姫路工業、  
飾磨工業、相生産業、龍野北、豊岡総合、洲本実業

ウ 商業に関する学科（9校）

神戸商業、西宮、氷上、篠山産業、松陽、小野、姫路商業、相生産業、洲本実業

エ 水産に関する学科（1校）

香住

オ 家庭に関する学科（6校）

松陽、西脇、社、小野工業、佐用、山崎

カ 看護に関する学科（2校）

龍野北、日高

キ 福祉に関する学科（2校）

龍野北、日高

（4）特色ある専門学科：13校 484人（男：202人 女282人）

- ・スポーツや芸術、科学、環境など、各分野において専門的な技術・知識を学習

神戸（総合理学科）、国際（国際科）、舞子（環境防災科）、

尼崎小田（サイエンスリサーチ科・国際探求学科）、鳴尾（国際文化情報学科）、

西宮（音楽科）、宝塚北（演劇科）、明石（美術科）、明石北（自然科学科）、

明石西（国際人間科）、加古川東（理数科）、社（体育科）、豊岡（理数科）

（5）総合学科：14校 513人（男：207人 女：306人）

- ・生徒の興味・関心、進路希望などに応じて、普通科目と専門科目の両方から自分自身で科目を選んで学習

- ・多様な選択科目は、「系列」と呼ばれるグループに分けられており、各学校において、多くの特色ある系列を設置

神戸甲北、須磨友が丘、武庫荘総合、西宮今津、伊丹北、有馬、明石南、加古川南、三木東、  
香寺、太子、豊岡総合、和田山、淡路

（6）多部制（単位制）：4校 108人（男：68人 女：40人）

- ・午前（1部）、午後（2部）、夜間（3部）の3つの部があり、仕事や生活の環境に合わせ、いずれかの部に所属して学習

- ・単位制

西宮香風、阪神昆陽、西脇北、飾磨工業

（7）定時制・通信制：19校 527人（男：332人 女：195人）

〈定時制〉

洲本（普通科）、湊川（普通科）、有馬（普通科）、川西（普通科）、

川西高校宝塚良元校（普通科）、松陽（普通科）、農業（普通科）、錦城（普通科）、

赤穂（普通科）、姫路北（普通科単位制）、豊岡（普通科）、神戸工業（工業科）、

神崎工業（工業科）、小野工業（工業科）、長田商業（商業科）、龍野北（商業科）、

相生産業（工業科）

〈通信制〉

青雲（普通科単位制）、網干（普通科単位制）

- ・定時制：働きながら学びたい人など、さまざまな学習ニーズを持った人たちが、午後5時頃から9時頃まで学習

- ・通信制：働きながら学びたい人などが、リポートの提出やスクーリング（教室などで、先生から直接授業を受けること）などによって単位を修得

## 生徒アンケート結果

[1, 2, 3] ※複数回答可

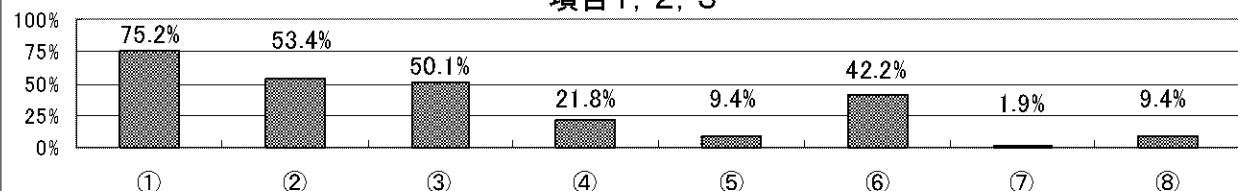
生徒用アンケート

入学前、あなたの在籍する高校の情報は、主に誰から（どこで）得ることができましたか。（3つまで選んでください。）

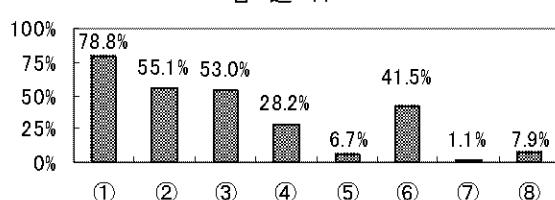
- ①中学校の先生
- ②家族・親戚
- ③知人・先輩・友人
- ④塾の先生
- ⑤教育委員会のホームページ・パンフレット
- ⑥高等学校のオープン・ハイスクール、体験学習会等
- ⑦新聞
- ⑧その他

- 全体の75.2%の生徒が、中学校の先生から情報を得ているだけでなく、家族・親戚、知人・先輩・友人からはそれぞれ全体の53.4%、50.1%となっており、身近な人からの情報も参考にしている。
- 中学生自身が直接情報を収集する方法として、高等学校のオープン・ハイスクール・体験学習会等が全体の42.2%と高い割合を示していることから、実際に高校の様子を体験することは重要である。

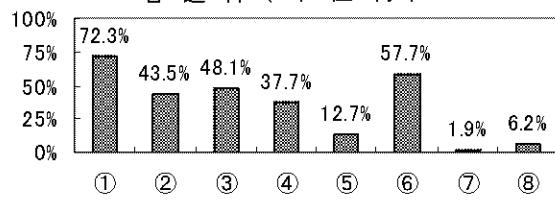
項目1, 2, 3



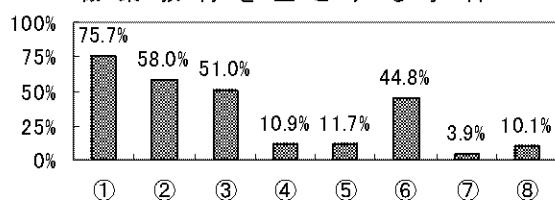
普通科



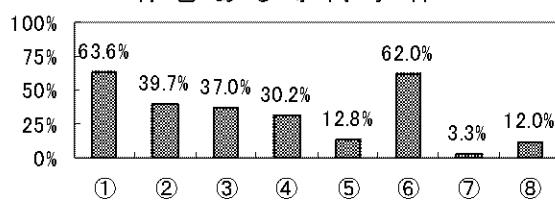
普通科（単位制）



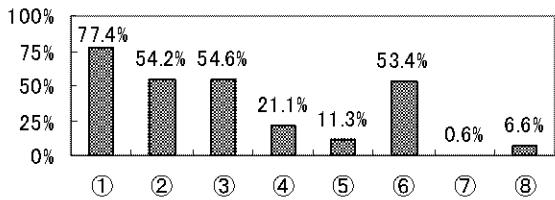
職業教育を中心とする学科



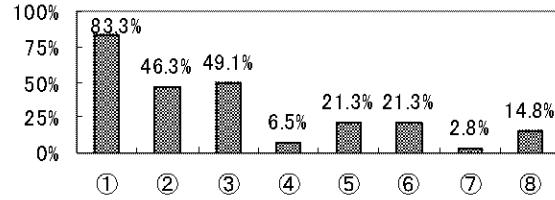
特色ある専門学科



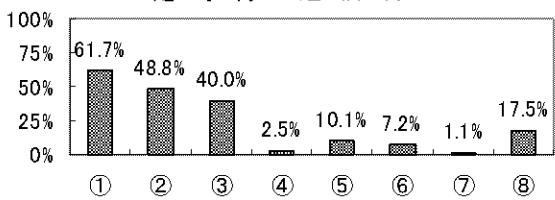
総合学科



多部制（単位制）



定時制・通信制



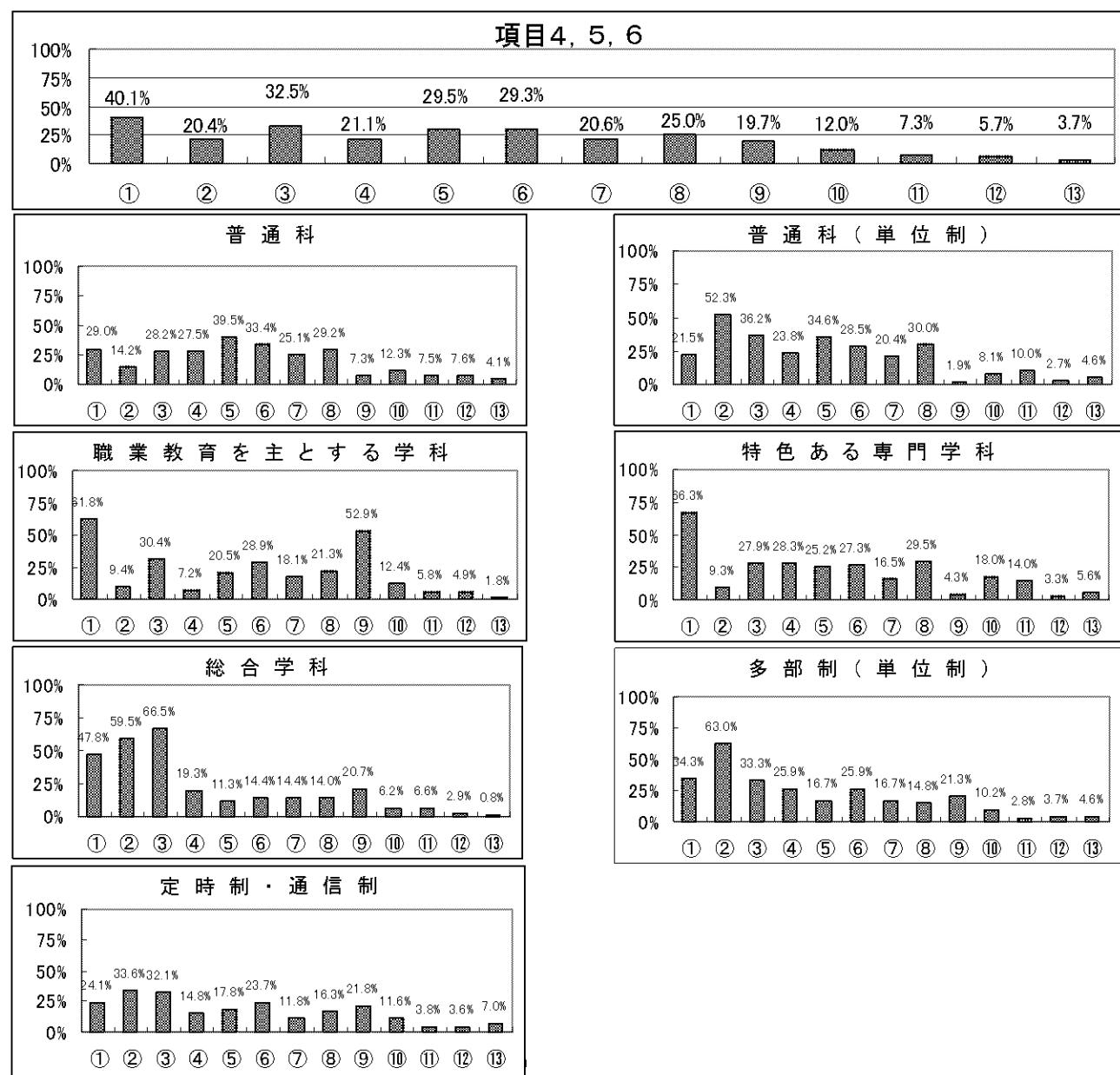
[ 4, 5, 6 ] ※複数回答可

## 生徒用アンケート

- あなたが考える「高校の魅力や特色」とは、どのようなものですか。(3つまで選んでください)
- ①独自のコースや専門学科の設置
  - ②単位制、総合学科といった多様なシステム
  - ③多様な教科・科目
  - ④教育活動上の工夫（習熟度別授業、少人数授業など）
  - ⑤伝統的な学校行事
  - ⑥進路指導（進学・就職）における実績
  - ⑦部活動における顕著な成績
  - ⑧充実した施設や設備、学校周辺の環境など
  - ⑨様々な資格の取得
  - ⑩卒業生の様々な分野での活躍
  - ⑪大学や企業との連携による授業
  - ⑫地域の伝統文化の継承
  - ⑬その他

- 普通科と定時制・通信制、普通科（単位制）と多部制（単位制）の生徒が考える高校の魅力や特色は、それぞれ全体としてよく似た傾向を示している。
- 総合学科の生徒が考える高校の魅力や特色は、全体として普通科（単位制）と職業教育を主とする学科の生徒における特徴を合わせた特徴を示しており、特に多様な教科・科目が設置されていることに魅力・特色を感じている生徒が、66.5%と高い割合を示している。
- 普通科においては、多様な教科・科目や習熟度別授業といった教育活動上の工夫だけでなく、伝統的な学校行事に魅力・特色を感じる生徒が39.5%と高い割合を示している。
- 職業教育を主とする学科では、生徒の進路状況などにより、資格の取得に対する意識が、それぞれ52.9%と高い割合を示している。

項目4, 5, 6



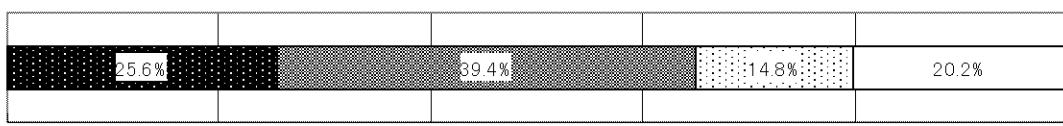
- ・ 自由な校風（24）
- ・ 学校の雰囲気や外観（21）
- ・ 教員の熱意（11）
- ・ 自分のスタイル、ペースで学べること（9）
- ・ 教員、生徒の雰囲気（9）
- ・ 自宅から学校までの距離が近いこと（9）
- ・ 働きながら学習でき、高卒の資格が取れる（8）
- ・ 国際的な交流ができる授業（8）
- ・ ボランティア活動（4）
- ・ 地域との積極的な交流（4）
- ・ 礼儀や挨拶などのマナーが当たり前にできる（3）
- ・ 厳しいがきっちりとした生徒指導（3）
- ・ 制服（3）
- ・ 文武両道を頑張る学校生活（2）

あなたは、上記の4, 5, 6で答えた「学校の魅力・特色」を高校選択の理由としましたか。

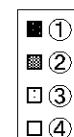
- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

○ 全体の65%（①25.6%、②39.4%）の生徒が、学校の魅力・特色を高校選択の理由としている。特に、特色ある専門学科、総合学科、職業教育を主とする専門学科、多部制（単位制）の生徒においては、それぞれ86.1%（①45.1%、②41.0%）、80.9%（①34.3%、②46.6%）、79.3%（①35.7%、②43.6%）、77.5%（①40.8%、36.7%）とその傾向が顕著である。

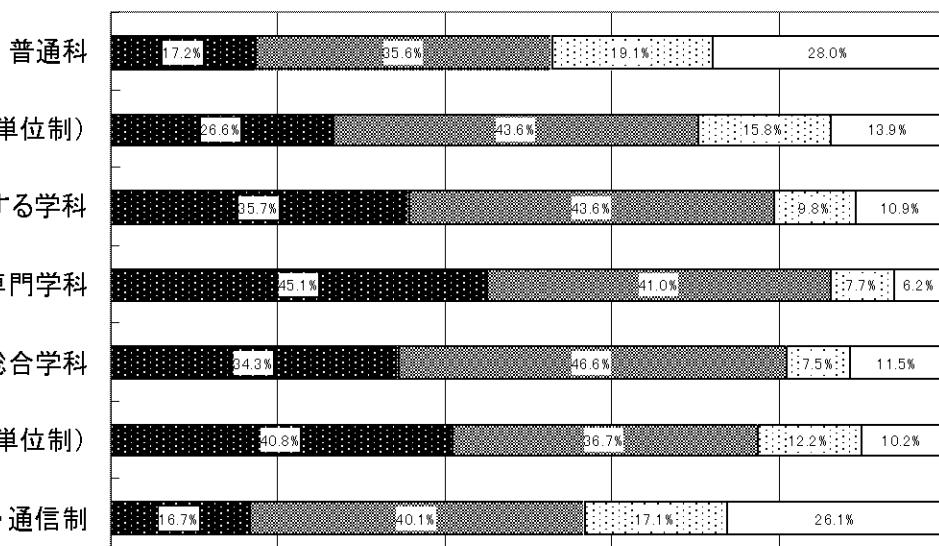
項目7



0% 20% 40% 60% 80% 100%



項目7



0% 20% 40% 60% 80% 100%



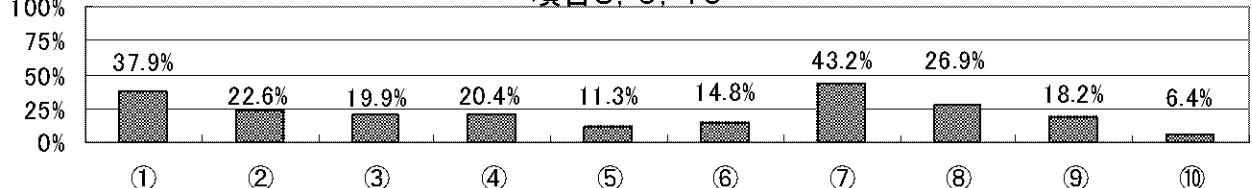
あなたが中学校時代に、高校で学びたい（体験したい）と思っていたことは何ですか。（3つまで選んでください。）

- ①大学や研究機関、企業等と連携した実践的な講義や演習、共同研究、共同開発
- ②地域住民や自治会等と連携した清掃などのボランティア活動
- ③研究成果や実習成果等の報告会・発表会
- ④スポーツ選手や技術者、演出家等の専門家による実技などの直接指導
- ⑤自然科学系や技能、芸術等の各種コンテストへの参加
- ⑥地域の福祉施設等との交流によるボランティア活動
- ⑦将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）
- ⑧専門家による先端技術や体験談等の講演会
- ⑨海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流

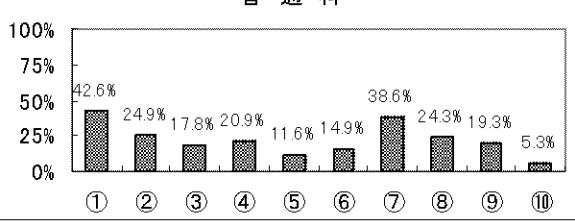
⑩その他

- 将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）を望む生徒の割合が全体の43.2%と最も高い割合を占めており、普通科、普通科（単位制）においても、多くの生徒が望んでいる。次いで大学や研究機関、企業等と連携した学びと、専門家による体験談等の講話を望む生徒の割合が、それぞれ37.9%、26.9%となっている。
- 特に、特色ある専門学科、普通科（単位制）では、海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流を体験したいと望む生徒の割合が、それぞれ44.2%、25.0%と高くなっている。

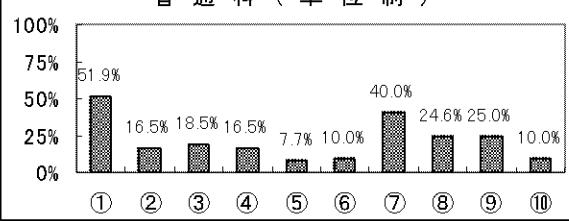
項目8, 9, 10



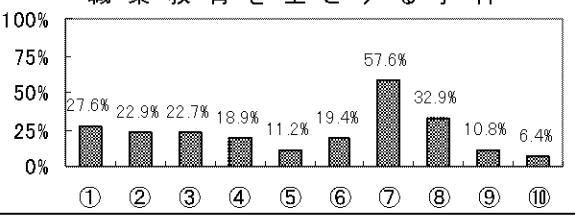
普通科



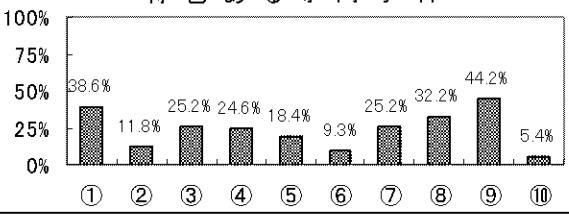
普通科（単位制）



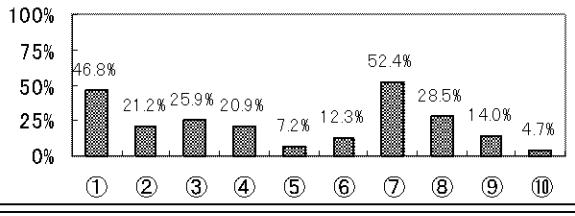
職業教育を中心とする学科



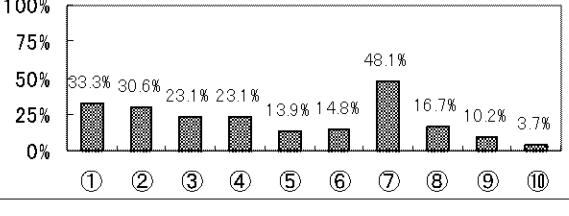
特色ある専門学科



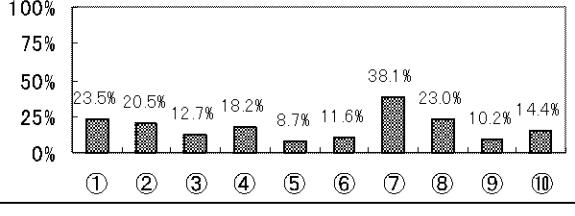
総合学科



多部制（単位制）



定時制・通信制



「⑩その他」回答（149件における主なもの）

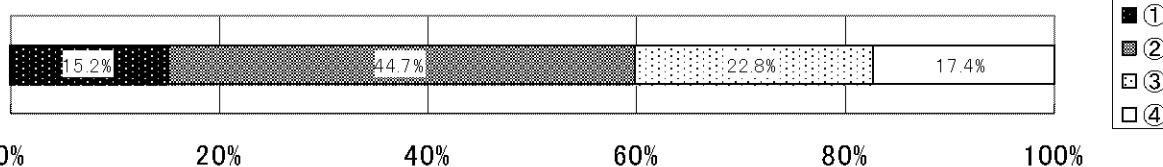
- ・ 専門分野を伸ばす実習（45）
- ・ その学校だけでしか学べない学科等の授業（22）
- ・ 部活や生徒会等の活動（19）
- ・ 高卒の資格取得（18）
- ・ 将来の目標の設定（12）
- ・ 大学受験にも将来にも役立つ内容（10）
- ・ 資格、検定の取得（10）

あなたが入学前に想像していた「あなたの学校の魅力・特色」は期待したとおりでしたか。

- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

- 全体として半数以上の生徒が、期待したとおりだと考えており、特に特色ある専門学科や多部制(単位制)、総合学科、職業教育を主とする学科、では、それぞれ 82.5% (①32.1%、②50.4%)、67.0% (①29.1%、②37.9%)、66.8% (①14.3%、52.5%)、65.9% (①18.9%、②47.0%)と、全体より高い割合を示している。

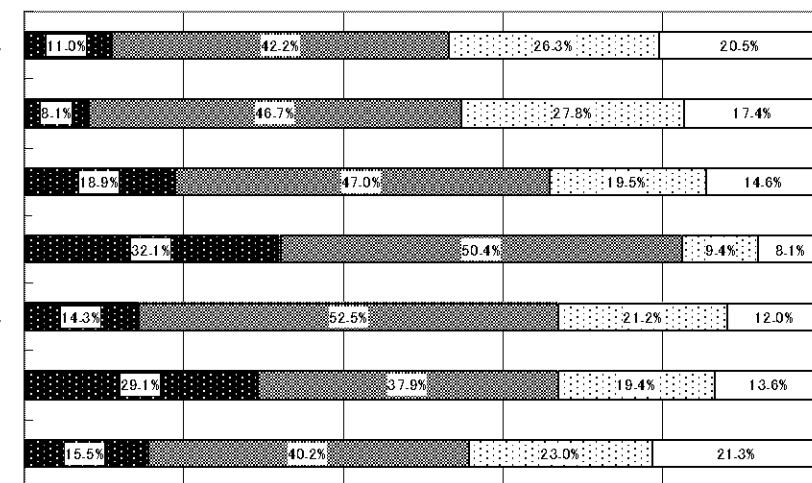
項目11



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- ①
- ②
- ③
- ④

項目11



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- ①
- ②
- ③
- ④

[参考] 項目7：入学前に、「学校の魅力・特色」を高校選択の理由としましたか。

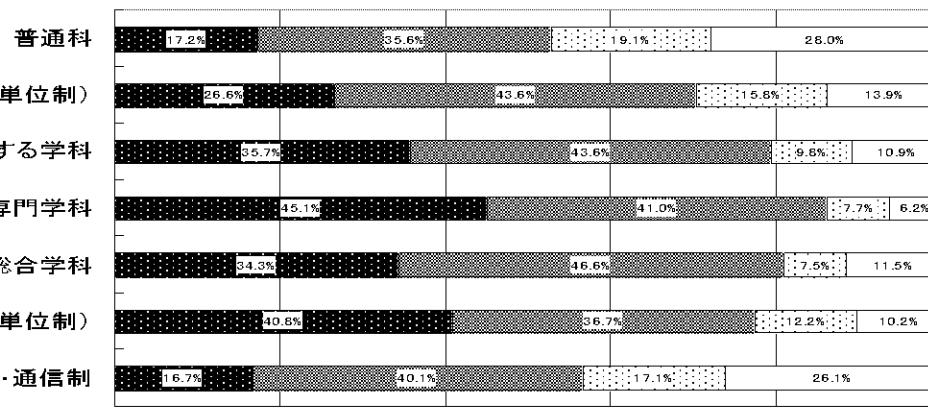
項目7



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- ①
- ②
- ③
- ④

項目7



0% 20% 40% 60% 80% 100%

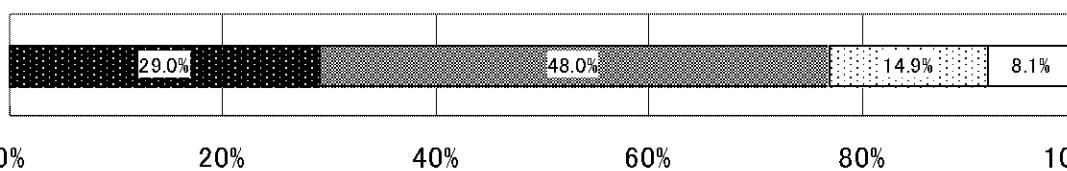
- ①
- ②
- ③
- ④

あなたは、在籍している学科の学習内容等に満足していますか。

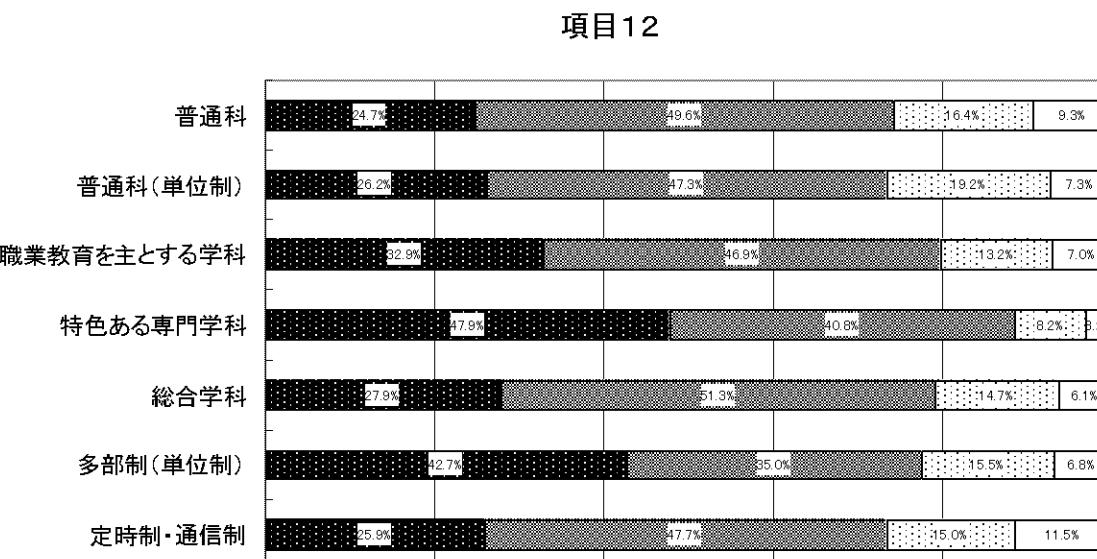
- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

○ 全体の 78.0% (①29.0%、②48.0%) の生徒が、高校での学習内容に満足している。特に、「①そう思う」と感じている生徒においては、特色ある専門学科と多部制（単位制）で、それぞれ 47.9%、42.7% と高い割合を示している。

項目12



- ①
- ②
- ③
- ④



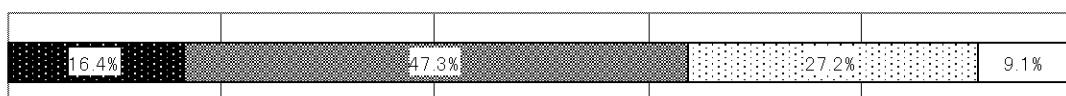
- ①
- ②
- ③
- ④

あなたの学校の魅力・特色ある取組について、あなた自身の関わりはどのようなものですか。

- ①関わっている
- ②だいたい関わっている
- ③あまり関わっていない
- ④関わっていない

○ 全体としては、63.7% (①16.4%、②47.3%) の生徒が、学校の魅力・特色ある取組に関わっており、特に、特色ある専門学科と職業教育を主とする学科においては学校の魅力・特色ある取組に関わっている割合が それぞれ 87.3% (①31.6%、②55.7%)、72.1% (①20.0%、52.1%) と高い割合を示している。

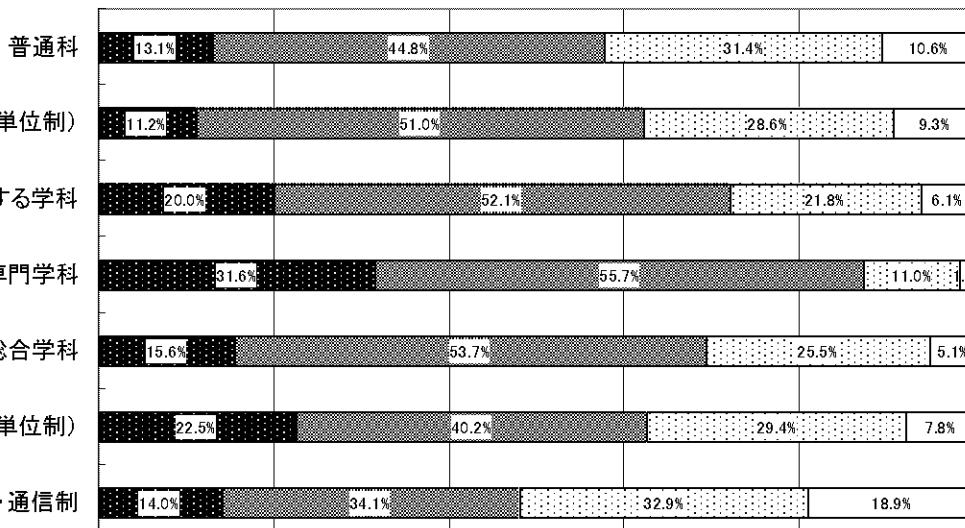
項目13



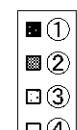
0% 20% 40% 60% 80% 100%



項目13



0% 20% 40% 60% 80% 100%

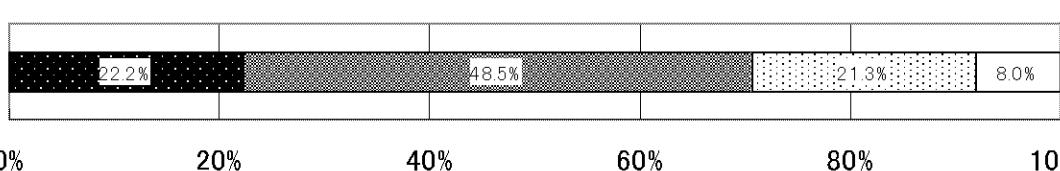


あなたの学校の魅力・特色は、地域に知られていますか。

- ①知られている
- ②だいたい知られている
- ③あまり知られていない
- ④知られていない

- 全体として 70.7% (①22.2%、②48.5%) の生徒が、学校の魅力・特色が地域に知られていると考えている。
- 職業教育を主とする学科、総合学科の魅力・特色が、地域によく知られているとそれぞれ 79.2% (①32.7%、②46.5%)、77.1% (①20.0%、②57.1%) の生徒が考える一方で、定時制・通信制については、42.2% (①11.9%、30.3%) とあまり知られていないと考えている。

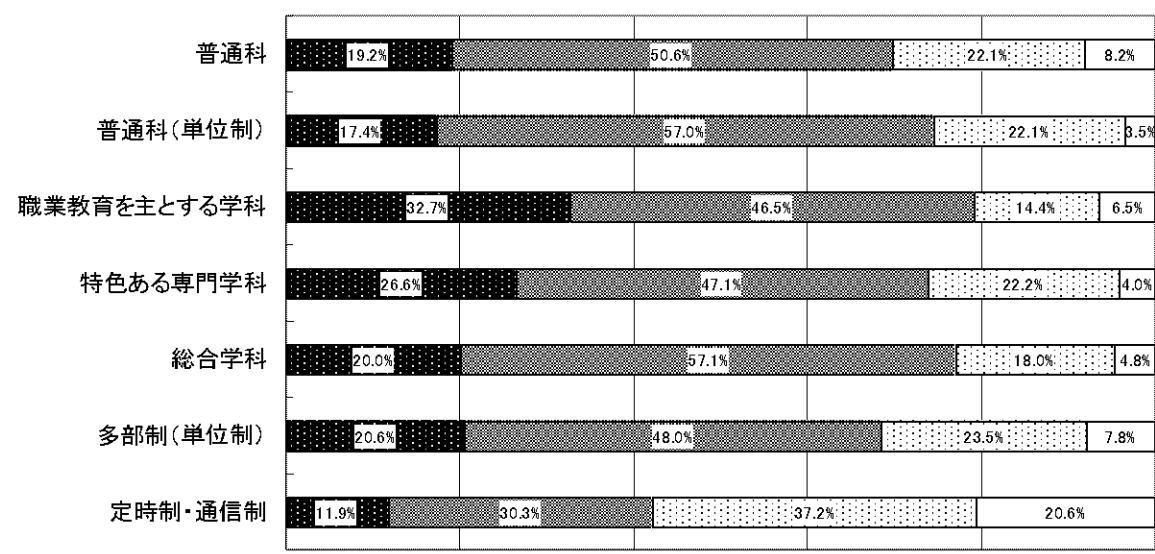
項目14



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- ①
- ②
- ③
- ④

項目14



0% 20% 40% 60% 80% 100%

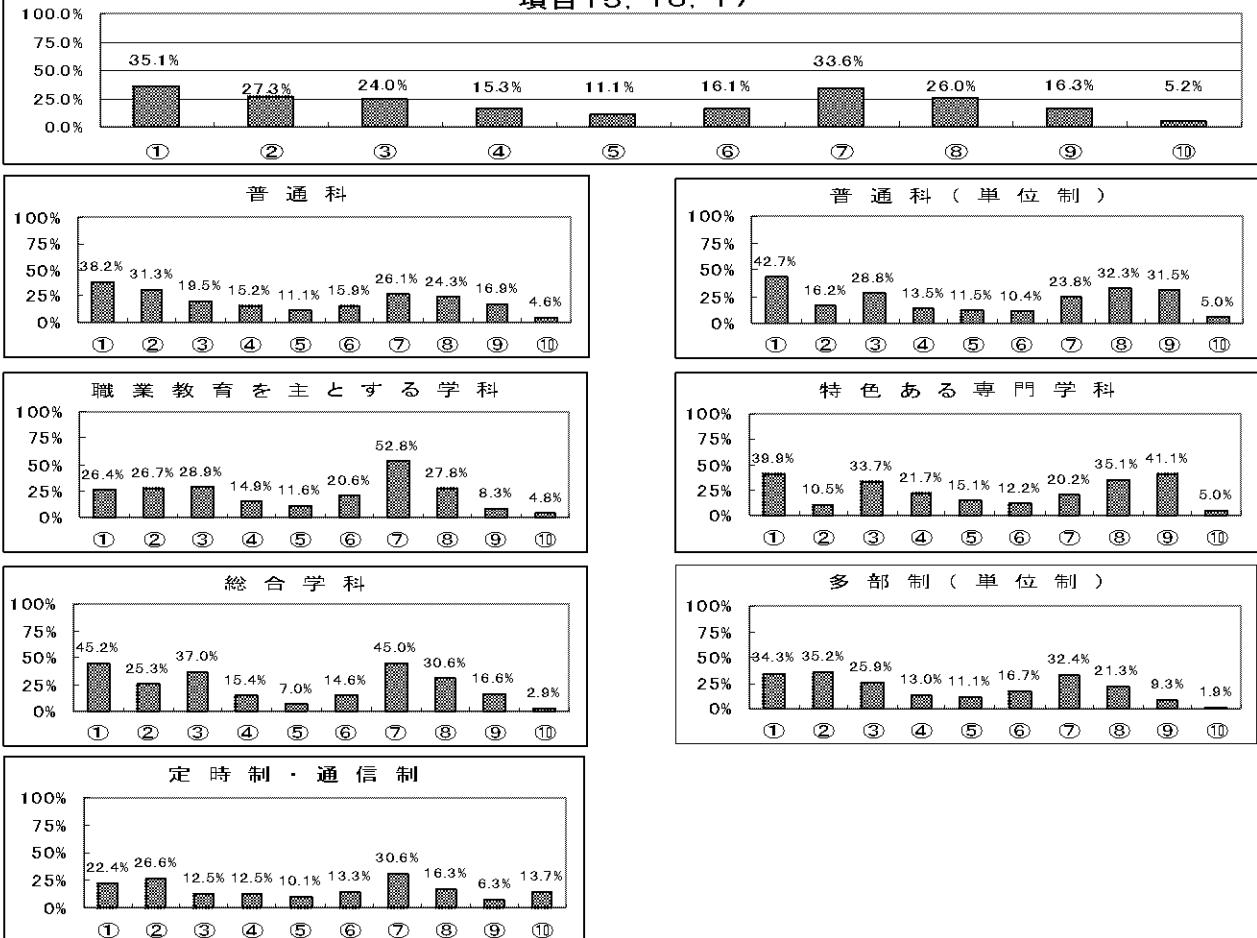
- ①
- ②
- ③
- ④

高校入学後、あなたが興味・関心を持った学び（体験）は何ですか。（3つまで選んでください）

- ①大学や研究機関、企業等と連携した実践的な講義や演習、共同研究、共同開発
- ②地域住民や自治会等と連携した清掃などのボランティア活動
- ③研究成果や実習成果等の報告会・発表会
- ④スポーツ選手や技術者、演出家等の専門家による実技などの直接指導
- ⑤自然科学系や技能、芸術等の各種コンテストへの参加
- ⑥地域の福祉施設等との交流によるボランティア活動
- ⑦将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）
- ⑧専門家による先端技術や体験談等の講演会
- ⑨海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流
- ⑩その他

- 全体として、大学や研究機関、企業等と連携した学び、将来につながる企業等での就業体験（インターンシップ）、への興味・関心を深めた生徒の割合が、それぞれ 35.1%、33.6% と高い。
- 全体として、地域住民や自治会等と連携した清掃などのボランティア活動への興味・関心は 27.3% と高い。
- 普通科では、海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流への興味・関心は 16.9% と高い。
- 普通科（単位制）では、海外での研修や、海外からの留学生との交流等による国際交流への興味・関心は 31.5% と高い。
- 職業教育を主とする学科では、専門家による先端技術や体験談等の講演会への興味・関心は 27.8% と高い。
- 特色ある専門学科では、海外からの留学生との交流等による国際交流と研究成果や実習成果等の報告会・発表会への興味・関心は、それぞれ 41.4%、33.7% と高い。
- 総合学科では、実習成果等の報告会・発表会への興味・関心は、37.0% と高い。
- 多部制（単位制）では、実習成果等の報告会・発表会への興味・関心は、25.9% と高い。
- 定時制・通信制では、専門家による先端技術や体験談等の講演会への興味・関心は 16.3% と高い。

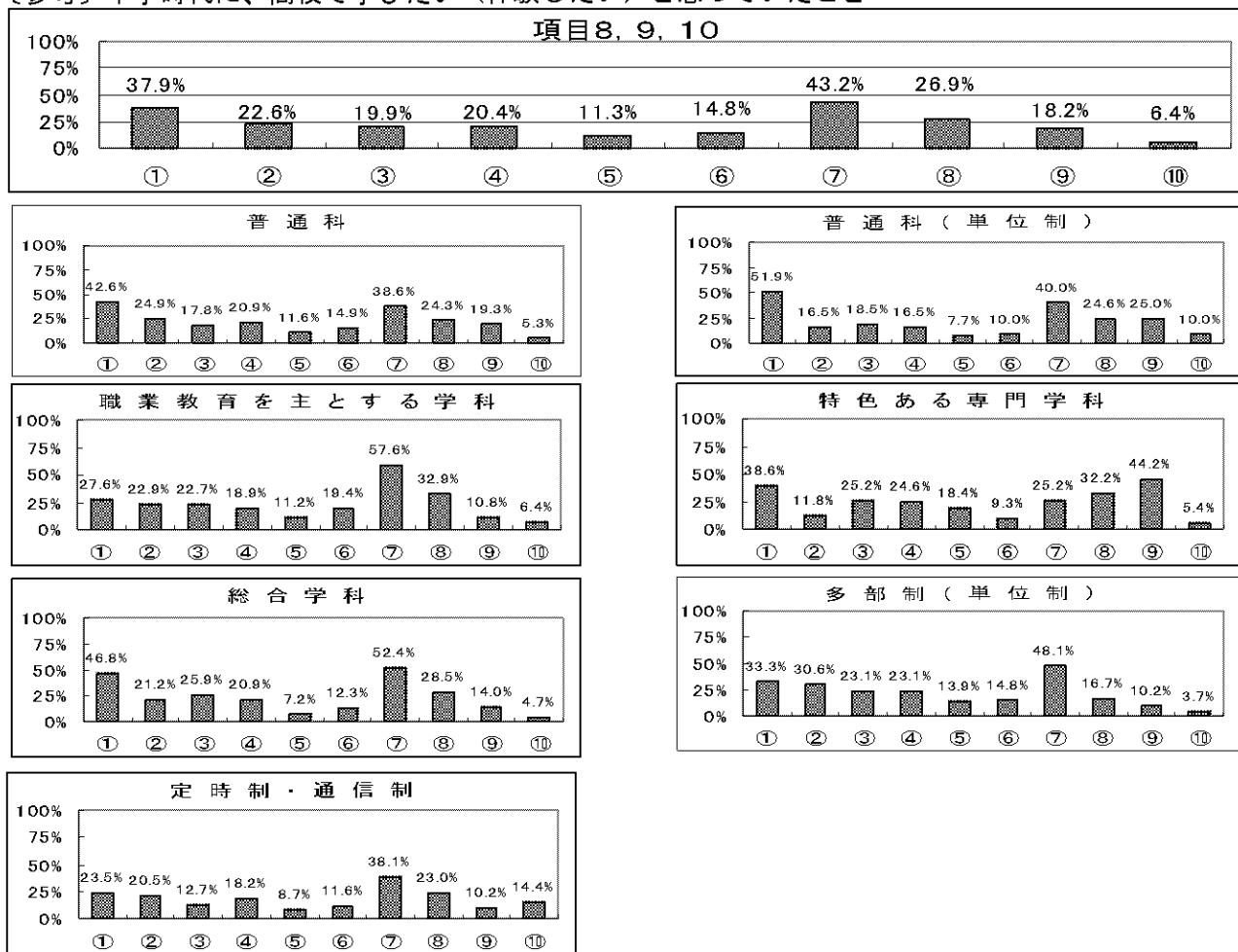
項目 15, 16, 17



「⑩その他」回答（107件における主なもの）

- ・ 実習（16）
- ・ 部活動（12）
- ・ 地域との様々な交流（9）
- ・ 工夫を凝らした学校行事（7）
- ・ 教員の熱意ある指導（7）
- ・ 資格取得（5）
- ・ 企業、大学訪問（4）

[参考] 中学時代に、高校で学びたい（体験したい）と思っていたこと



[ 18 ] ※複数回答可

生徒アンケート

上記の 15, 16, 17 以外に、あなたが高校時代に学びたい（体験したい）ものがあれば書いてください。

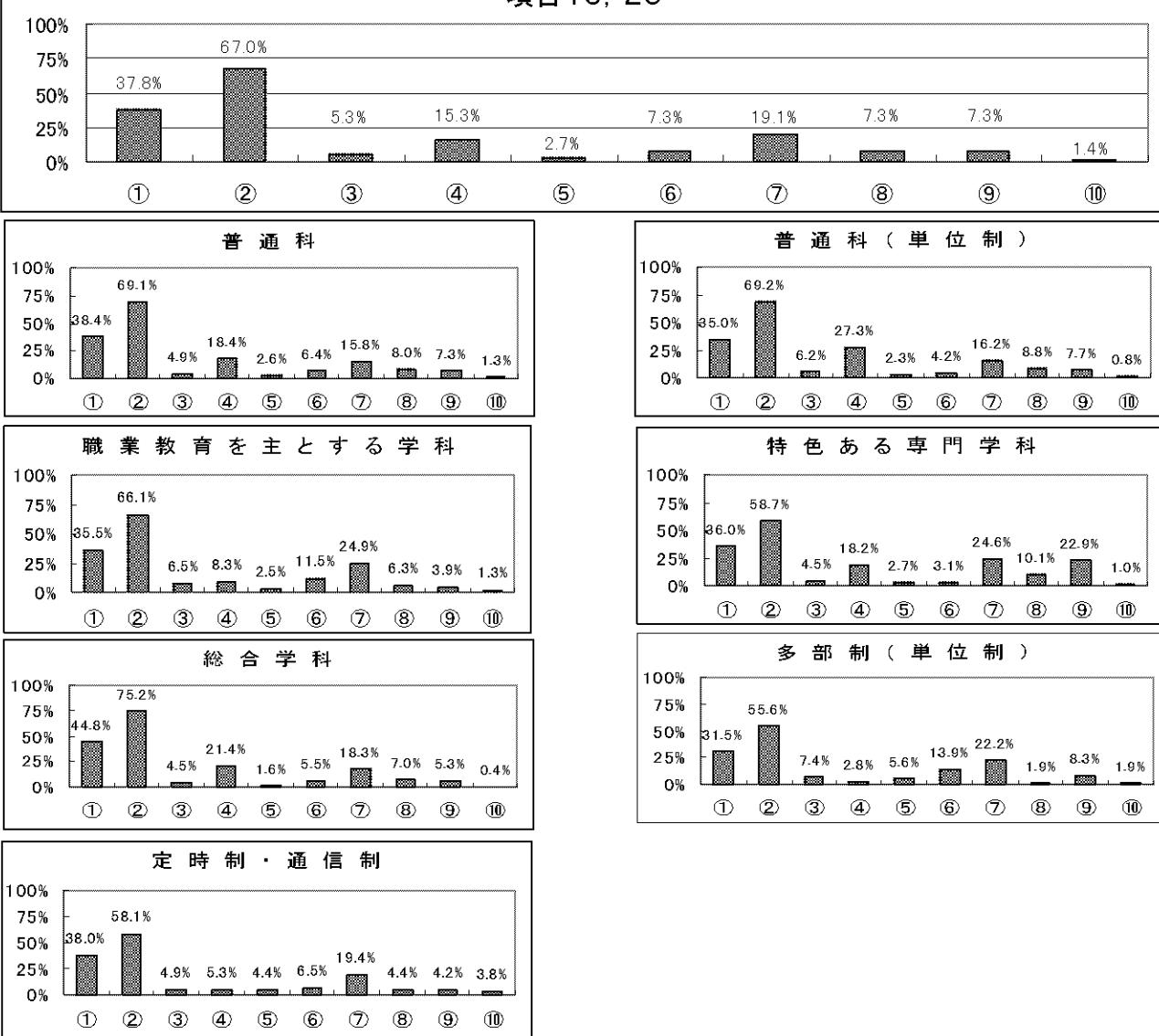
回答（217件における主なもの）

- ・ 課題研究での商品開発（56）
- ・ 国際交流による異文化体験（50）
- ・ 社会人としての常識、マナー（29）
- ・ 日本の伝統文化（7）
- ・ 英語の実践力（6）
- ・ 他校との交流会（6）
- ・ ボランティア活動（5）
- ・ 学校改善に向けた生徒と地域住民との意見交換会（5）
- ・ 卒業生との交流（4）

- 今後、高校での学び（体験）をどのように生かしていきたいですか。（2つまで選んでください）
- ①生涯を通じた積極的な学び
  - ②高校卒業後の進路選択
  - ③地域のコミュニティーリーダーとしての活動
  - ④大学等での調査・研究
  - ⑤各種コンテストや大会等への積極的な参加
  - ⑥地域等への各種ボランティア活動
  - ⑦スポーツや芸術、職場、研究等における技術・技能のレベルアップ
  - ⑧大学や研究機関、企業等での研究開発
  - ⑨海外での研修や、海外からの留学生との交流等における国際交流
  - ⑩その他

- 全体として、高校での学び（体験）を、高校卒業後の進路選択と生涯を通じた積極的な学びに生かしたいと考えている生徒の割合が、それぞれ 67.0%、37.8% と高い。特に、総合学科では、高校卒業後の進路選択に生かしたいと考えている生徒の割合が 75.2% と高い。
- 職業教育を主とする学科、特色ある専門学科、多部制（多部制）において、スポーツや芸術、職場、研究等における技術・技能のレベルアップに、高校での学び（体験）を生かしたいと考えている生徒の割合が、それぞれ 24.9%、24.6%、22.2% と高い。
- 特色ある専門学科の生徒においては、特に海外での研修や、海外からの留学生との交流等における国際交流に高校での学び（体験）を生かしたいと考えている生徒の割合が 22.9% と高い。
- 多部制（単位制）、職業教育を主とする学科では、地域等への各種ボランティア活動に高校での学び（体験）を生かしたいと考えている生徒の割合が、それぞれ 13.9%、11.5% と高い。

項目19, 20



「⑩その他」回答（32件における主なもの）

- ・ 人に喜ばれるとともに人のためになる仕事（10）
- ・ 礼儀作法等今後の人間関係（9）
- ・ 英語力を生かした諸活動（4）
- ・ コミュニケーション能力の向上（2）

[21] ※複数回答可

生徒アンケート

あなたの後輩に対して、新たに高校で学べる（体験できる）ようにしてほしいことがあれば書いてください。

回答（389件における主なもの）

- ・ 専門科目の充実（92）
- ・ 外国との交流、異文化体験活動、海外研修（41）
- ・ 多様な分野の体験授業の充実（40）
- ・ インターンシップ、職業ガイダンス（33）
- ・ 多様な資格、検定の取得（18）
- ・ 社会に出ても通用するコミュニケーション能力を育成できる授業（17）
- ・ 敬語の使い方やマナーなどの一般常識（16）
- ・ 多くの生徒がもっと地域の人たちと協力して行える行事（15）
- ・ 英語や英語以外の科目における英語での授業（14）
- ・ 海外での研修やホームステイ（12）
- ・ ボランティア活動（11）
- ・ A L T の先生の授業の充実（8）
- ・ 授業で習った事を生かせる実習体験（8）
- ・ 部活動の充実（8）
- ・ スポーツ選手、技術者等による実技の直接指導（2）
- ・ 地元企業との連携体験授業（2）
- ・ 普通科全員が実施するインターンシップ（1）

## 学校長アンケート結果

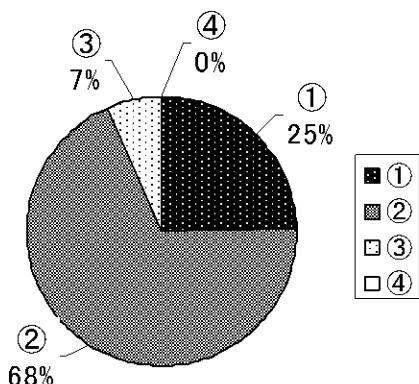
[1]

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりは、以前（平成20年頃）と比べて進んでいますか。

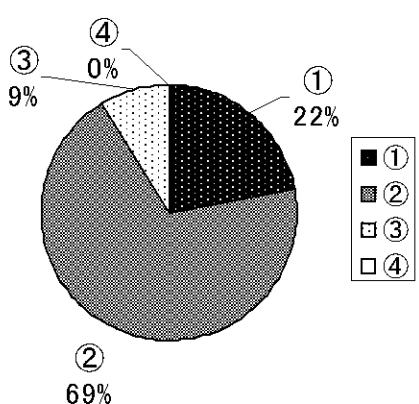
- ①大変進んでいる
- ②進んでいる
- ③あまり進でいない
- ④進でない

項目1



[参考] 学校関係者アンケート

項目1



◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

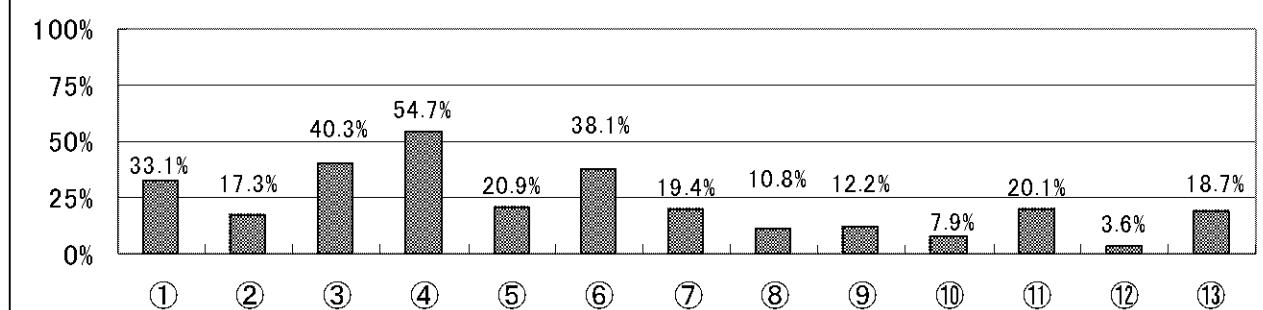
[2, 3, 4] ※複数回答可

学校長用アンケート

- 貴校が考える「高校の魅力や特色」とはどのようなものですか。(3つまで選んでください)
- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| ①独自のコースや専門学科の設置 | ②単位制、総合学科といった多様な学びのシステム   |
| ③多様な教科・科目       | ④教育活動上の工夫(習熟度別授業、少人数授業など) |
| ⑤伝統的な学校行事       | ⑥進路指導(進学・就職)における実績        |
| ⑦部活動における顕著な成績   | ⑧充実した施設や設備、学校周辺の環境など      |
| ⑨様々な資格の取得       | ⑩卒業生の様々な分野での活躍            |
| ⑪大学や企業との連携による授業 | ⑫地域の伝統文化の継承               |
| ⑬その他            |                           |

- 魅力・特色づくりが進んでいると考えている学校長は、高校の魅力や特色が、教育活動上の工夫(習熟度別授業、少人数授業など)といった教育内容であると考えている割合が54.7%と最も高い。
- 多様な教科・科目と独自のコースや専門学科の設置といった制度面は高校の魅力や特色だと考えている割合は、それぞれ40.3%、33.1%と高い。
- 進路指導(進学・就職)における実績が高校の魅力や特色だと考えている割合が38.1%と高い。

項目2, 3, 4



「⑩その他」回答(33件における主なもの)

- ・各種行事等による地域との連携(13)
- ・ボランティア活動やインターンシップ等の体験学習(7)
- ・多彩なキャリア教育(2)
- ・毎年の語学研修旅行や姉妹校生徒の受け入れ等の国際交流(1)
- ・異年齢集団による社会性、人間性を育む活動(1)
- ・挨拶、身だしなみなどのマナー指導(1)

◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

[ 5 ]

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりを進めるために、最も推進力となったものは何ですか。

①教職員の組織的な取組

②保護者の理解（協力）

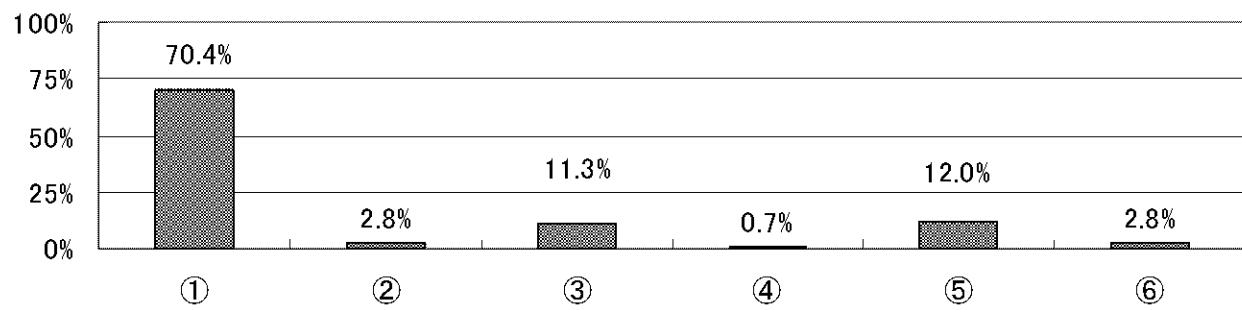
③地域の理解（協力）

④同窓会の理解（協力）

⑤県の事業による支援

⑥その他

項目5



「⑥その他」(13件における主なもの)

- ・教員、同窓会、PTA、地域との共通理解、協力 (1)
- ・教員の組織的取組と保護者の理解、協力 (1)
- ・学校の取組についての保護者、地域の理解と協力 (1)
- ・PR活動の内容の工夫と、更なる教育活動上の工夫 (1)
- ・東北ボランティア活動に率先して参加する等の生徒の行動力 (1)

◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

[6] ※複数回答可

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりをさらに進めるために必要と思われることがあれば書いてください。

回答（146件における主なもの）

〔教職員〕

- ・教員の人材確保（18）
- ・教員の組織的な取組（14）
- ・教員の資質、能力向上（12）
- ・教員の共通理解（8）
- ・職員の意欲高揚（4）
- ・若手教員、ミドルリーダーの育成（4）

〔教育内容〕

- ・生徒の進路や資格取得に向けた教育活動（8）
- ・学科、コース等における教育内容の工夫（7）
- ・少人数など多様な講座の開設（5）
- ・特別な支援が必要な生徒への支援（2）

〔地域等との連携〕

- ・保護者、地域、同窓会との連携（20）
- ・生徒、保護者、地域のニーズ把握（4）

〔その他〕

- ・PR活動の充実（13）
- ・インスパイア・ハイスクール事業等の魅力づくりの核となる事業での支援（12）
- ・施設・設備の充実（11）

◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

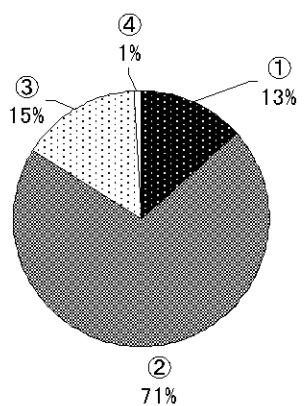
[7]

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色ある教育活動についての情報発信は十分だと思いますか。

- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

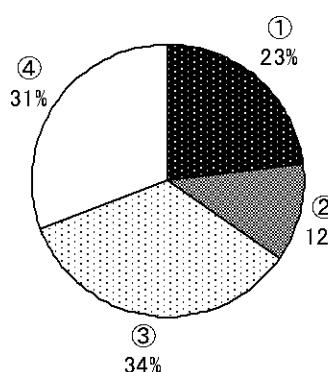
項目7



- 魅力・特色づくりが進んでいると考えている学校では、84%（①13%、②71%）の高校が、情報発信において十分にできていると考えており、魅力・特色づくりの情報発信は密接に関連している。

[参考] ◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

項目14



◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

[8] ※複数回答可

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりに対して、県の施策は、どのような点で役立ちましたか。事業名を含め、できるだけ具体的に書いてください。

回答（155件における主なもの）

○魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～（74）

- ・教員が学校の特色化を考え、さらに推進していく上でよいきっかけとなった。
- ・教員の意欲を高め、様々な体験活動を実施する上で大いに役立った。
- ・生徒の興味・関心を高めることや、進路決定に役立った。
- ・生徒の学習意欲の向上に大いに役立った。
- ・外部講師の招聘が可能になり、充実した特色ある教育課程が実施できた。
- ・生徒のキャリア教育を推進することができた。
- ・地域住民、近隣小中学校との連携を強化することができた。
- ・本校独自の取組について、中学生に発信することができた。
- ・販売実習等を毎年継続して行うことができた。

○高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～（38）

- ・社会に貢献する生徒を育てることができた。
- ・地域のこどもとの交流や地域の交流事業に積極的に取り組むことができ、成果を挙げた。

○学力向上推進プロジェクト（15）

- ・生徒の学習意欲の向上や教員の授業力向上に役立った。
- ・コミュニケーション能力の向上を高大連携と関連づけながら進めていくことの契機となった。
- ・職員に授業改善の視点と意識を持たせることができた。
- ・教職員の意識変革の一助となり、授業展開でも工夫が見られるようになった。

○高校生就業体験事業～インターンシップ推進事業～（14）

- ・地域の企業、病院、福祉施設でインターンシップを行った。
- ・インターンシップ及び国際機関、大学体験講義の実施ができた。

○高校生心のサポートシステム（13）

- ・心のサポート推進委員会を中心には、チーム支援による総合支援体制ができた。
- ・課題を抱えた生徒へのきめ細かい指導が可能となった。
- ・職員の意識が変わり、生徒が落ちついた状態での授業ができるようになっている。

○「ひょうご匠の技」探求事業及び「ひょうごの達人」招聘事業（12）

- ・難関の資格取得には、日々の練習が欠かせないが、技能の伝承への取組は、参加している生徒のみではなく多くの生徒へも好影響があり、学科の活性化が果たせた。
- ・高度熟練技能者の指導を受けることにより、課題研究や技能検定で成果をあげ、地域の企業からも高い評価を得た。
- ・ものづくりに関わる高度熟練技能者を招聘し、教員の技術・技能の向上を図ることにより、生徒のより高度な資格技能検定の取得を推進できた。
- ・専門技術の向上に役立った。

○「ことばの力」充実事業（6）

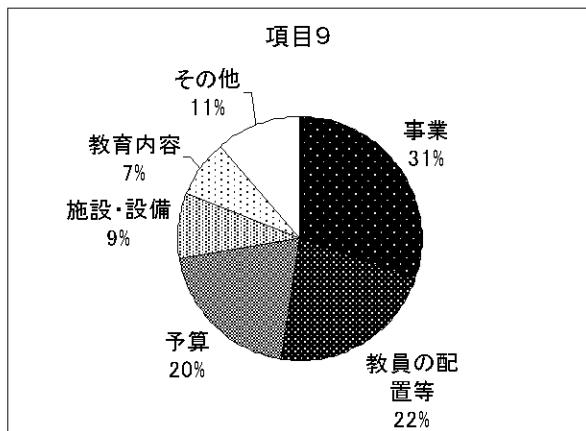
- ・本校の多様な教育活動を体系化することができた。

◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

[9] ※複数回答可

学校長用アンケート

今後、貴校の魅力・特色づくりをさらに進めるための県の事業として、どのような支援が必要ですか。できるだけ具体的に書いてください。



回答（142件における主なもの）

〔事業〕（53）

- ・インスパイア・ハイスクール事業の継続
- ・インスパイア・ハイスクール事業のような特色化を支援する事業の継続（あるいは、学校裁量の大きい同様の新規事業の立ち上げ）
- ・高校生地域貢献事業、高校生就業体験事業の継続
- ・3年計画でなく、継続した事業支援を実施

〔教員の配置等〕（39）

- ・特別支援を要する生徒への対応に向けた専門的知識と経験を持った人材の配置
- ・小規模校活性化に向けた、教員加配等に結びつく人的支援

〔予算〕（35）

- ・高校生に基礎学力を身につけるための検定やボランティア活動を実施するための予算
- ・小規模校活性化に向けた経済的支援

〔施設・設備〕（15）

- ・各校の魅力化に必要な施設、設備の充実
- ・遠方からも通学できる寮の設置

〔教育内容〕（13）

- ・中学校と高校の交流と連携を図る取組への支援
- ・部活動活性化への支援
- ・カウンセリングや特別支援教育に関する支援

〔その他〕（20）

- ・魅力・特色づくりをさらにすすめるために広報活動について一層の支援
- ・ホームページ以外の広報活動への支援

◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

[10] ※複数回答可

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりが進んでいない理由は何ですか。できるだけ具体的に書いてください。

回答（11件における主なもの）

〔教員〕

- ・教員の高校教育改革に対する理解と組織的取組の不足（5）

〔教育内容〕

- ・多発する問題行動の対応や基本的生活習慣の確立に多くの時間がとられる。（3）

◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

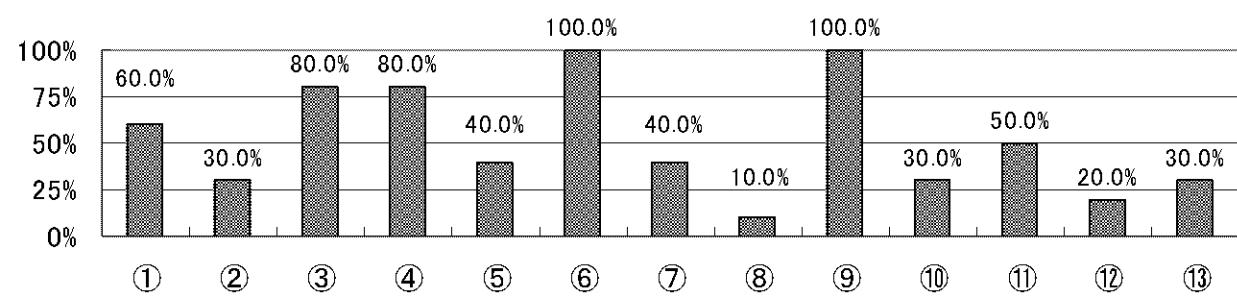
[11, 12, 13] ※複数回答可

学校長用アンケート

- 貴校が考える「高校の魅力や特色」とはどのようなものですか。(3つまで選んでください)
- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| ①独自のコースや専門学科の設置 | ②単位制、総合学科といった多様な学びのシステム   |
| ③多様な教科・科目       | ④教育活動上の工夫(習熟度別授業、少人数授業など) |
| ⑤伝統的な学校行事       | ⑥進路指導(進学・就職)における実績        |
| ⑦部活動における顕著な成績   | ⑧充実した施設や設備、学校周辺の環境など      |
| ⑨様々な資格の取得       | ⑩卒業生の様々な分野での活躍            |
| ⑪大学や企業との連携による授業 | ⑫地域の伝統文化の継承               |
| ⑬その他            |                           |

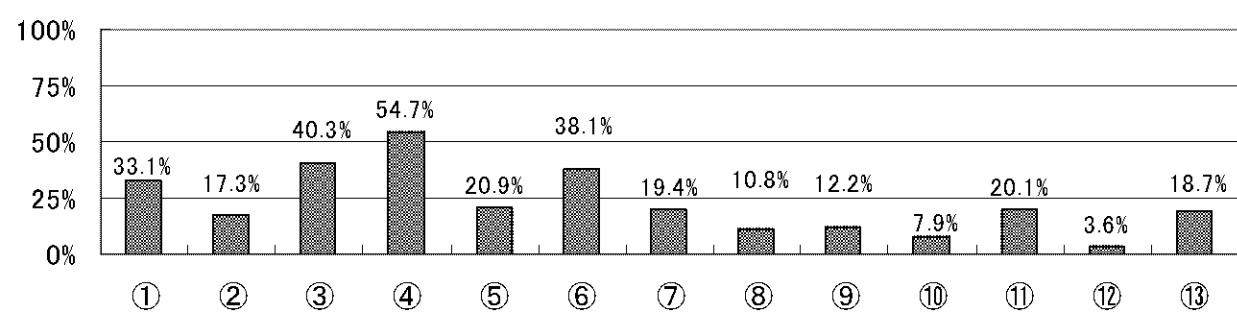
- 魅力・特色づくりが進んでいないと考えている学校長の全員が、高校の魅力や特色が、進路指導(進学・就職)における実績と様々な資格の取得といった結果が大切だと考えている。
- 習熟度別授業、少人数授業などの教育活動上といった教育内容と、多様な教科・科目といった制度面についても、どちらも 80.0%と高い割合を示している。

項目11, 12, 13



[参考] ◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

項目2, 3, 4



◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

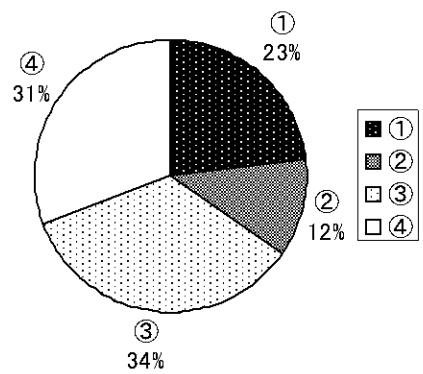
[14]

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色ある教育活動についての情報発信は十分だと思いますか。

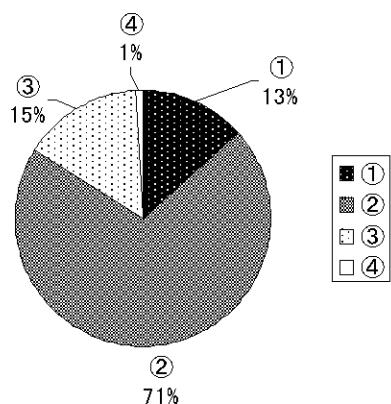
- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

項目14



[参考] ◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校

項目7



- 魅力・特色づくりが進んでいないと考えている学校では、65%の高校が、情報発信において不十分だと考えており、魅力・特色づくりの情報発信は密接に関連している。

◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

[15] ※複数回答可

学校長用アンケート

貴校の魅力・特色づくりを進めるために必要な要素は何ですか。できるだけ具体的に書いてください。

回答（26件における主なもの）

〔教員〕

- ・教員の指導力の強化（8）
- ・教員の意思統一と実践的な行動（5）
- ・教員の意識改革（5）
- ・若手教員を育てる教員体制の充実（2）
- ・協調性と個性のある教員の配置（1）
- ・教員数の増加（1）

〔教育内容〕

- ・ボランティア活動等の体験教育の充実（2）
- ・基礎的、基本的学力の定着（2）
- ・部活動、学校行事の活性化（1）
- ・指導方法の改善（1）

〔地域等との連携〕

- ・地域で活動する多様な人材活用（3）
- ・地域、関係機関との連携（2）
- ・PTA、卒業生の協力（1）

〔その他〕

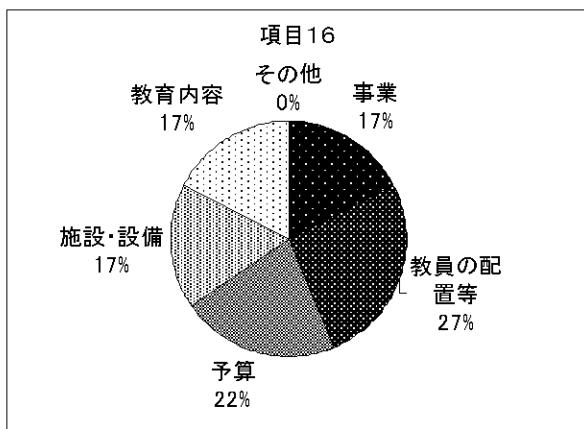
- ・生徒、保護者、地域のニーズの熟知（2）

◆ 「③あまり進んでいない」、「④進んでいない」と答えた高校

[16] ※複数回答可

学校長用アンケート

今後、貴校の魅力・特色づくりを進めるための県の事業として、どのような支援が必要ですか。できるだけ具体的に書いてください。



回答（25件における主なもの）

〔事業〕(4)

- ・インスピア事業の強化
- ・学力向上プログラムのもう一つ前段階の基礎学力定着プログラム事業

〔教員の配置等〕(6)

- ・教員の増員
- ・習熟度別授業、少人数授業への人的支援
- ・力量のある教員の確保・育成

〔予算〕(5)

- ・事業実施に伴う継続的な財政的支援

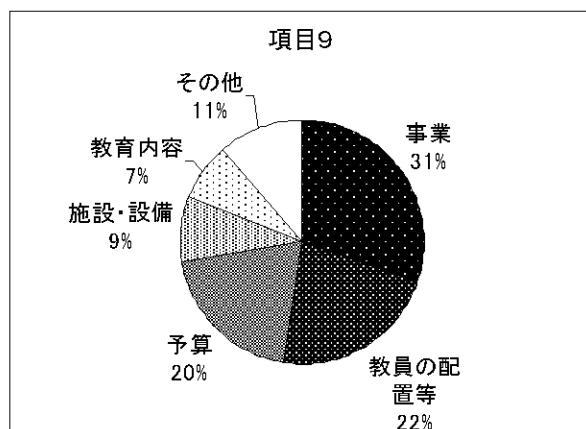
〔施設・設備〕(2)

- ・魅力化に必要な備品の更新と施設・設備の充実

〔教育内容〕(4)

- ・インターンシップ全員実施に向けた受入先の確保
- ・多様な科目履修を可能とするための支援
- ・心の教育の推進に係る支援

〔参考〕◆ 「①大変進んでいる」、「②進んでいる」と答えた高校



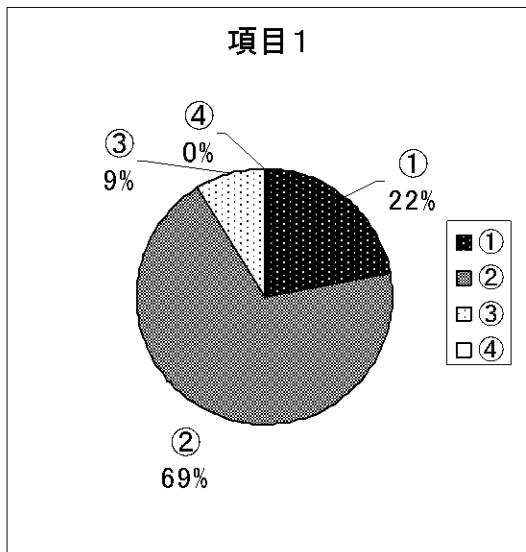
## 学校関係者アンケート結果

[ 1 ]

学校関係者用アンケート

貴校の魅力・特色づくりは、以前（平成20年頃）のイメージと比べて進んでいますか。

- ①大変進んでいる
- ②進んでいる
- ③あまり進んでいない
- ④進んでいない



- 学校関係者の 81% (①22%、②69%) は、学校の魅力・特色づくりが、以前（平成20年頃）のイメージと比べて進んでいると考えている。

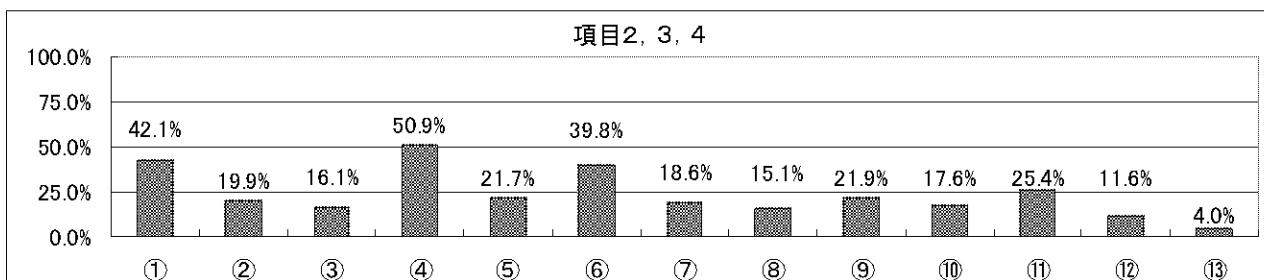
〔2, 3, 4〕※複数回答可

## 学校関係者用アンケート

あなたが考える「高校の魅力や特色」とはどのようなものですか。(3つまで選んでください)

- ①独自のコースや専門学科の設置
- ②単位制、総合学科といった多様な学びのシステム
- ③多様な教科・科目
- ④教育活動上の工夫（習熟度別授業、少人数授業など）
- ⑤伝統的な学校行事
- ⑥進路指導（進学・就職）における実績
- ⑦部活動における顕著な成績
- ⑧充実した施設や設備、学校周辺の環境など
- ⑨様々な資格の取得
- ⑩卒業生の様々な分野での活躍
- ⑪大学や企業との連携による授業
- ⑫地域の伝統文化の継承
- ⑬その他

- 学校関係者は、教育活動上の工夫（習熟度別授業、少人数授業など）のような教育内容が、高校の魅力・特色だと考えている割合が50.9%と最も高い。
- 学校関係者は、独自のコースや専門学科の設置といった制度面と、様々な指導の結果である進路指導（進学・就職）における実績や様々な資格の取得が高校の魅力・特色だと考えている割合がそれぞれ42.1%、39.8%と高い。



「⑬その他」回答（20件における主なもの）

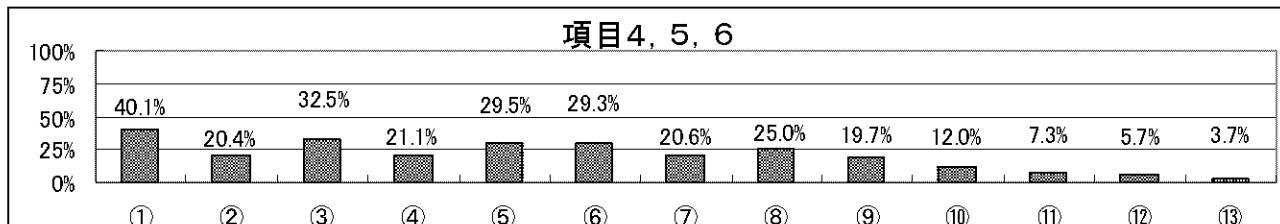
## 〔教育内容〕

- ・ボランティア活動（3）
- ・在校生がいきいきとしていること。（2）
- ・学習発表会等の実施（1）
- ・ノーチャイムで実施されている学習環境（1）
- ・きめ細かな生徒指導（3）
- ・海外の学校との交流（1）
- ・文武両道を実践するための環境づくり（1）

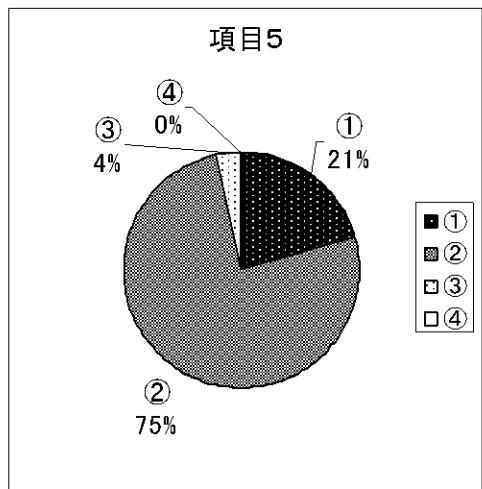
## 〔地域との連携等〕

- ・地域の人とのふれあいを大切にした学校づくり（1）
- ・多くの卒業生が組織する同窓会との様々な交流（1）
- ・地域の幼稚園、小学校等との連携（1）
- ・PTCA活動の活性化（1）

## 〔参考〕生徒アンケート結果



- 貴校の生徒にとって、高校生活が充実していると思いますか。
- ①大変充実している
  - ②充実している
  - ③あまり充実していない
  - ④充実していない

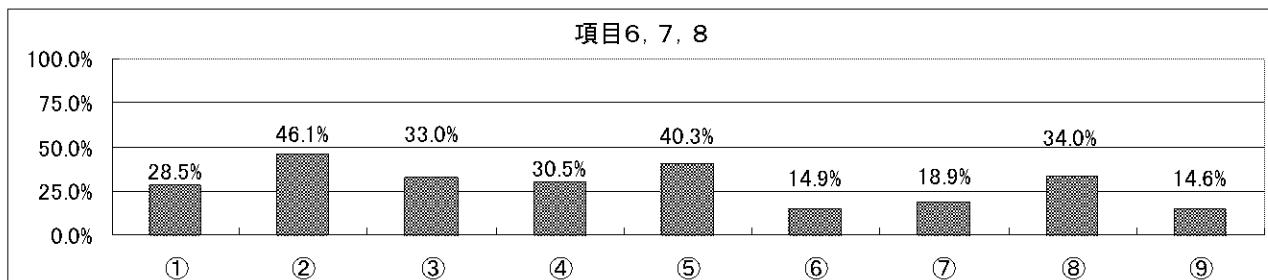


- 学校関係者の 96% (①21%、②75%) が、生徒が充実した高校生活を過ごしていると考えている。

貴校の魅力・特色づくりをどのような手段で知りましたか。(3つまで選んでください。)

- ①中学校での説明会
- ②高校のホームページ
- ③配布された学校新聞等
- ④高等学校での学校説明会
- ⑤高等学校でのオープン・ハイスクール
- ⑥公共の掲示板、広報誌等
- ⑦地域イベント
- ⑧学校評議委員会等の校内委員会
- ⑨その他

○ 学校関係者は、高校のホームページや高等学校でのオープン・ハイスクールで、高校の魅力・特色づくりの情報を得ている割合がそれぞれ 46.1%、40.3%と高い。



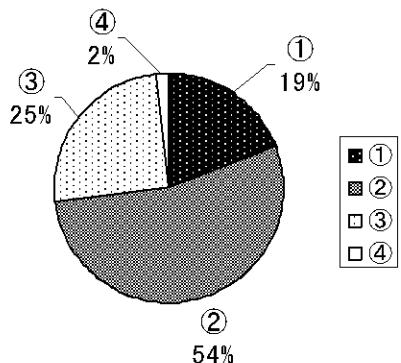
#### 「⑨その他」回答（60件における主なもの）

- ・家族、親類、隣人など、身近な卒業生、在校生（22）
- ・担任との個人面談（10）
- ・在校生や卒業生の親（6）
- ・学校行事等への参加（5）
- ・新聞記事（4）
- ・塾の説明会（3）
- ・PTA活動（3）
- ・同窓会での報告（3）
- ・校長による説明（2）

現在実施している魅力・特色ある教育活動についての情報発信は十分だと思いますか。

- ①そう思う
- ②どちらかといえばそう思う
- ③どちらかといえばそう思わない
- ④そう思わない

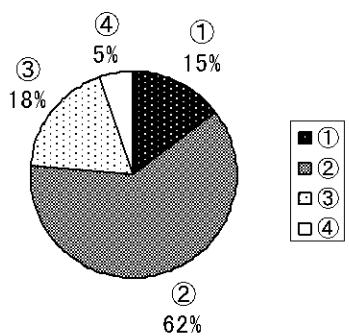
項目9



- 学校関係者の 73% (①19%、②54%) が、学校の魅力・特色ある教育活動についての情報発信は十分だと考えている。

[参考] 学校長アンケート（項目 1 の回答に関係なく、学校長全員の集計）

項目7+項目14



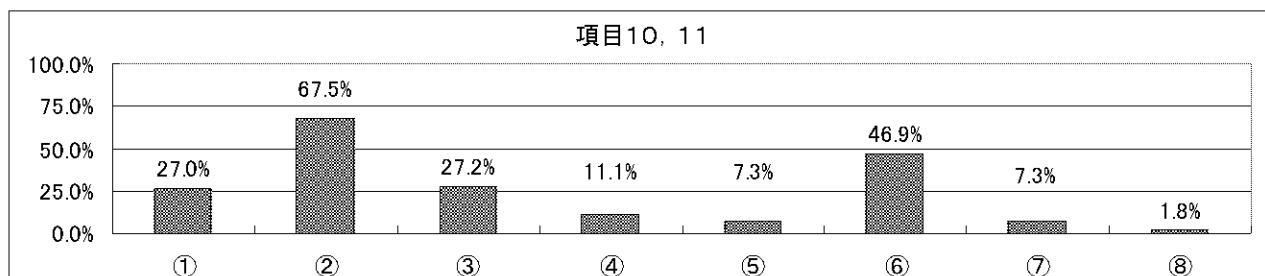
[10, 11] ※複数回答可

学校関係者用アンケート

貴校の魅力・特色づくりを進めるために必要なことは何ですか。(2つまで選んでください。)

- ①校長や教頭のリーダーシップ
- ②教職員全体による学校の魅力・特色についての共通理解
- ③保護者・卒業生（同窓会）による協力
- ④地域住民による協力
- ⑤地域の大学や企業の支援
- ⑥生徒の認識と努力
- ⑦県教育委員会等による支援
- ⑧その他

- 学校関係者は、学校の魅力・特色づくりを進めるためには、教職員全体による学校の魅力・特色についての共通理解と、生徒の認識と努力だと考えている割合がそれぞれ 67.5%、46.9% と高い。



「⑧その他」回答（7件における主なもの）

- ・ ホームページや広報誌、地域イベントでのPR（2）
- ・ 部活動などを中心とした学校づくり（1）

回答（211件における主なもの）

〔教員〕

- ・校長先生による学校運営（8）
- ・教員の共通理解（9）
- ・教員の熱意ある指導（3）

〔教育内容〕

- ・教育内容の改善（20）
- ・魅力づくりの取組を焦点化等による学校のセールスポイントの明確な打ち出し（14）
- ・インターンシップ等の体験教育の充実（6）
- ・部活動の活性化（4）
- ・挨拶を奨励するなど、明るく意欲的に学習に取り組める雰囲気づくり（3）
- ・海外留学等による国際交流（3）

〔地域等との連携〕

- ・合同行事やイベント参加等による地域との連携の強化（32）
- ・教員と保護者、卒業生との協力体制（22）
- ・現在の取組の客観的な評価による取組内容の改善（5）
- ・学校、PTA、地域等による魅力づくり検討委員会の設置（2）

〔その他〕

- ・ホームページ等による積極的な情報発信（43）

# 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会設置要綱

## (目的)

第1条 県立高等学校における魅力・特色づくりの支援の在り方を検討するため、県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会（以下「評価・検証委員会」という。）を設置する。

## (所掌事項)

第2条 評価・検証委員会は、次の事項を所掌する。

- (1) 魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～を中心とする魅力・特色づくり事業にかかる評価・検証
- (2) 今後の魅力・特色づくりの支援の方向性、充実方策の検討
- (3) その他、魅力・特色づくりの評価・検証をするために必要な事項に関すること

## (組織)

第3条 評価検証委員会は10名以内の委員で組織する。

2 委員は、教育又は教育行政に関し高い識見を有する者のうちから高校教育課長が委嘱する。

## (委員長)

第4条 評価検証委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選によって定め、副委員長は委員長が指名する。

2 委員長は会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

## (任期)

第5条 委員の任期は1年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (会議)

第6条 評価・検証委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

2 委員は、事故その他のやむを得ない理由により会議に出席できないときには、あらかじめ委員長の承認を得て、代理人を出席させることができる。

3 委員長は必要があると認めたときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その意見を聞くことができる。

## (謝金)

第7条 委員が会議の職務に従事したときは、別に定めるところにより、謝金を支給する。ただし、県職員（学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く）及び県費負担教職員にあっては支給しない。

2 第6条第2項の規定に基づき、代理人が会議に出席したときは、代理人に対して委員と同額の謝金を支給する。

## (旅費)

第8条 委員が会議の職務を行うために、会議に出席したときは、別に定めるところにより、旅費を支給する。旅費の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和35年兵庫県条例第44号）に基づき支給する。ただし、県職員（学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く）及び県費負担教職員である委員については、当該職員の職務の扱いに基づく額とする。

2 第6条第2項の規定に基づき、代理人が出席したときは、代理人に対して旅費を支給する。ただし、県の職員及び県費負担教職員である代理人については、当該職員の職務の級とする。

## (庶務)

第9条 評価・検証委員会の関する庶務は、高校教育課において行う。

## (補則)

第10条 この要綱に定めるものほか、必要な事項は高校教育課長が別に定める。

## 附則

- 1 この要綱は、平成24年5月24日から施行する。
- 2 この要綱は、平成25年3月31日をもって効力を失う。
- 3 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、高校教育課長が招集する。

## 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会 審議経過

回	日程	会場	主な内容
第1回	7月10日(火)	県民会館	<p>〔開会行事〕 ①委員長、副委員長の選出 ②協議日程及び委員会の公開についての確認</p> <p>〔資料説明〕 ①アンケート及び学校視察の実施概要について ②兵庫県の魅力・特色づくりの実施状況について</p> <p>〔協議〕 魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスピア・ハイスクール～への実施状況について (自由討議)</p>

- ・第1回評価・検証委員会の議事要旨作成
- ・県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証に関する各委員への意見聴取

回	開催日	会場	主な内容
第2回	8月27日(月)	県民会館	<p>〔協議〕 ①アンケート結果の報告 ②学校視察の報告 ③これまでの協議等の意見まとめ (自由討議)</p>

- ・第2回評価・検証委員会の議事要旨作成
- ・県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証に関する各委員への意見聴取

回	開催日	会場	主な内容
第3回	10月11日(木)	県民会館	<p>〔協議〕 ①学校視察の報告 ②報告書骨子の確認</p>

- ・第3回評価・検証委員会の議事要旨作成
- ・県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証に関する各委員への意見聴取

回	開催日	会場	主な内容
第4回	12月13日(木)	県民会館	<p>〔協議〕 報告書(案)についての検討</p>

- ・委員長から、長期構想検討委員会で、報告書(概要)について説明
- ・第4回評価・検証委員会の議事要旨作成
- ・最終報告書の作成
- ・県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証に関する各委員への意見聴取

回	開催日	会場	主な内容
第5回	1月16日(水)	教育委員会室	<p>〔協議〕 報告書についての最終確認</p>

- ・最終報告書を、委員長から教育委員会へ提出

## 県立高等学校の魅力・特色づくりの評価・検証委員会委員

No	種別	氏名	所属・職
1	学識者	学校経営 長瀬 庄一	神戸女子短期大学学長
2		社会教育 廣岡 徹	兵庫教育大学教職大学院教授
3	高校関係者	常陰 則之	県立高等学校長協会副会長（普通） 県立加古川東高等学校長
4		宿南 敏行	県立高等学校長協会代表（産業教育） 県立神戸商業高等学校長
5	中学校関係者	兼氏 敏幸	中学校長会代表 神戸市立渚中学校長
6		香嶋 裕子	小学校長会代表 尼崎市立園田南小学校長
7	地域代表者	地域代表者 森 貴彦	公益社団法人日本青年会議所兵庫ブロック協議会会长 一般社団法人加古川青年会議所監事